

UBZ-BM51 UBZ-BM51BT

特定小電力トランシーバー

取扱説明書 (詳細編)



お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの「取扱説明書 (詳細編)」をよくお読みの
うえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用
することはできません。
UBZ-BM51BT は Bluetooth[®] 搭載モデルです。

株式会社 JVCケンウッド

B5A-4710-00 (J)

目次

安全上のご注意

ご使用の前に

ご使用上のご注意	14
電波法に関するご注意	14
防塵 / 防水性能について	15
Bluetooth® 機能に関する表示 (UBZ-BM51BTのみ)	16
Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意	16
運用モードについて	17
本機の付属品	18
充電電池 (バッテリーパック) について	18
充電電池の取り付け	20
充電電池を充電する	22
充電器の連結	25
ベルトフックの取り付け	26
オプション機器を接続する	27
ストラップを取り付ける	28

各部の名称と機能

各キーの機能	29
表示部のアイコン一覧	30
各キーの動作図	33

基本操作

基本操作一覧	34
運用モードの設定	35
簡易メニュー	36
グループ番号を設定する	36
ボイススクランブル (秘話) 機能を設定する	37
機能 (基本) 設定メニュー	39
機能 (基本) 設定のしかた	39
機能 (基本) 設定項目一覧	40
機能 (拡張) 設定メニュー	41
機能 (拡張) 設定のしかた	41
各カテゴリーの設定項目一覧	44
通信時間の制限について	47
交互通話モード (シンプレックス) での通信操作	48
中継器アクセスモード (セミデュプレックス) での通信操作	50

基本機能

オートチャンネルセレクト	51
本体オートチャンネルセレクトキー設定	51

オートチャンネルセレクトを使う	52
オートチャンネルセレクトを解除する	53
簡易スキャン	54
簡易スキャン設定	54
簡易チャンネル 1 ～ 3 設定	55
簡易スキャンを使う	56
セカンドチャンネルスキャン	58
セカンドチャンネル設定	58
セカンドグループ番号設定	59
セカンドボイススクランブル設定	59
セカンドチャンネルビーブ音設定	61
セカンドチャンネルスキャン再開時間設定	62
セカンドチャンネルスキャンを使う	63
セカンドチャンネルで送信する	66
モニター	67
モニターする	67
モニターを解除する	67
本機の【PF】またはリモコン対応マイクロホンからモニター状態にする	68
コールトーン呼び出し	68
コールトーン音色設定	69
本機のキーでコールトーン呼び出しをする	69
本機の【PF】またはリモコン対応マイクロホンのリモコンキーを押して、 コールトーン呼び出しをする	70
グループ番号不一致通知	70
キーロック	71
キーロック長押し時間設定	71
キーロックをする	72
キーロックを解除する	72
VOX	73
VOX レベル設定	74
VOX 遅延時間設定	75

その他機能

通信に関する設定	76
マイク感度 (内蔵) 設定	76
マイク感度 (外部) 設定	77
コンパンダー設定	77
送信パワー設定	78
通話告知音設定	79
通話告知音動作設定	80

目次

送信禁止設定.....	81
PTT ホールド設定.....	82
PTT ホールド自動復帰設定.....	83
バッテリーに関する設定.....	84
バッテリーセーブ設定.....	84
オートパワーオフ設定.....	85
表示に関する設定.....	86
バックライト動作設定.....	86
チャンネル番号切替設定.....	87
チャンネル非表示設定.....	88
音に関する設定.....	89
ビープ音設定.....	89
スケルチレベル設定.....	90
キーに関する設定.....	91
本体 PF キー設定.....	92
リモコンキー 1 ～ 3 設定.....	93
Bluetooth® に関する設定 UBZ-BM51BTのみ	94
Bluetooth 設定.....	94
Bluetooth 機器ペアリング設定.....	95
Bluetooth マイクの入力切替設定.....	97
Bluetooth の初期化.....	98
エマージェンシー機能	
エマージェンシー操作.....	99
エマージェンシーに関する設定.....	101
エマージェンシーオーディオ動作設定.....	101
バックグラウンドトーン設定.....	102
エマージェンシーキー動作時間設定.....	103
エマージェンシー送信サイクル設定.....	104
その他	
オプション一覧.....	105
故障かな? と思ったら.....	107
オールリセット.....	110
保証とアフターサービスについて.....	111
仕様.....	112

説明上の注釈表記について



このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。



このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

本書の用語について

用語	意味
本機	特定小電力トランシーバー (UBZ-BM51/ UBZ-BM51BT) を指す。
無線機本体	
充電電池	UPB-8L (本機付属のLi-ion 電池または、オプションのバッテリーパック) を指す。
トランシーバー	交互通話モード (シンプレックス)、中継器アクセスモード (セミデュプレックス) に対応した特定小電力トランシーバーのこと。
待受けチャンネル	本機が待ち受け状態のときに【▲】、【▼】を使って設定するチャンネルのこと。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	注意（警告を含む）が必要なことを示す記号です。
	禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
	分解してはいけないことを示す記号です。
	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

⚠危険

使用環境・条件

-  引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリンなどの可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。
-  運転しながら無線機を操作（通信）するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作（通信）してください。

充電池の取り扱いについて

充電池は以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

-  充電池を電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください。
-  充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。
-  充電池、充電器、ACアダプタを本機以外の機器に取り付けしないでください。
-  火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解したりしないでください。
-  濡れた本機と充電池を充電しないでください。火災や感電の原因となります。
-  端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。
-  必ず専用の充電池、充電器、ACアダプタを使用して充電してください。指定以外の機器を用いて充電すると故障の原因になります。

安全上のご注意

充電池から内部の液体などが漏れている場合は、直ちに使用をやめて、下記のことをお守りください。



充電池内部の液体が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。



充電池内部の液体が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

警告

使用方法について



エアバック装置の近くに本機を置かないでください。エアバック装置が動作したときなど装置が体に当たってけがをすることがあります。



機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカー・マイクロホンなどのケーブルを首に掛けしないでください。けがの原因となります。



本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・やけど・感電・故障の原因となります。



本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・やけど・感電・故障の原因となります。



アンテナやストラップを持って、本機を振り回さないでください。人に当たってけがを負わせたり、ものに当たって装置が破損したりすることがあります。



ネックストラップを使用している場合、ネックストラップがドアや機械などに挟まれないように注意してください。けがの原因となります。



アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。

次のページへつづく

-  高温になる場所（火のそば、暖房機のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しないでください。火災、やけど、けがの原因となります。
-  本機の付属品や、本機から取り外したものを幼児、子供の手の届くところに置かないでください。あやまって飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
-  直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色し、火災・やけどの原因となることがあります。
-  ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
-  本機は、充電動作中に充電電池の温度が高くなる場合があります。充電電池を交換するときは、やけどに十分気を付けて取り外してください。

AC アダプタの取扱について

-  AC100V 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
-  タコ足配線はしないでください。過熱・発火の原因となります。
-  濡れた手で電源プラグに触れたり、電源コードを抜き差ししたりしないでください。感電の原因となります。
-  電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。
-  電源プラグの端子にほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災や感電の原因になります。

異常時の処置について



内部に水や異物が入った場合や、落したり、ケースを破損したりした場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがしたりするなどの異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・やけど・感電・故障の原因となります。



煙が出たら、やけどに注意してすぐに電源を切り、充電池をはずし、充電中は電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。



落下などにより破損した部品には直接触らないでください。けがの原因となります。



雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源を切り、充電中は電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

保守・点検



本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。

内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

使用環境・条件

-  電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
-  空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認したうえでご使用ください。
-  本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。
-  テレビやラジオ、パソコンの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
-  直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品の変形・変色や、火災の原因となることがあります。
-  調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
-  結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

AC アダプタの取扱について

-  ACアダプタのコードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電・故障の原因となることがあります。
-  ACアダプタを抜くときは、必ずプラグを持ってください。コードを引っばると、コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。
-  電源プラグが容易に抜き差しできる空間を設けてください。
 - ・電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。
 - ・機器はコンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用方法について

-  オプション機器は指定された製品以外を使用しないでください。指定機器以外を使用すると誤動作や故障の原因になります。
-  バッテリーカバーが外された状態で本機を使用しないでください。
-  ベルトフックに指を挟まないようにご注意ください。
-  充電電池を本機から出し入れするときは、無線機本体や充電電池を落とさないように注意してください。
-  スピーカー/マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。
-  乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用したときに静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカーマイクロホンをご使用ください。
-  充電しながら本機を使用することはできません。必ず本機の電源を切ってください。
-  長期間使わないときは、電源を切り、充電電池をはずして、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。

次のページへつづく

 お手入れの際は、安全のため電源を切り、充電機をはずして、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。

 イヤホンを使用するときは、音量を上げすぎないでください。聴覚障害の原因となることがあります。

 スピーカー・マイクロホンなどを本機に接続している場合は、音量を下げてください。モニター機能を使用するときの音量に注意してください。

 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

 充電端子部の清掃には、ウェットティッシュは使用しないでください。ウェットティッシュを使用して清掃すると接触不良の原因となる場合があります。
充電端子部の清掃には、乾いた綿棒を使うか、綿棒などに無水エタノール（無水アルコール）を少量含ませて、端子部が変形しないようにやさしく拭いてください。無水エタノール（無水アルコール）は薬局・薬店で市販されています。

 充電端子部以外の外観などで汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジン、アルコールは使用しないでください。

 本機は、長時間、送信のために使用される場合、本体の金属部分が熱くなるため、充電機を交換するときなどは、金属部分には手を触れないでください。

 マイクの開口部やスピーカーグリルに水が入ると、音声レベルが不安定になったり歪んだりすることがあります。本機を操作する前に、本機を軽く振って、スピーカーやマイクから水を取り除いてください。

 オプション機器の接続が無く、端子カバーが開いているときに水没し、内部に水や異物が入った場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。お買い上げの販売店にご連絡ください。

 ◆ 別売りの外部機器使用時の注意については使用する機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご使用の前に

ご使用上のご注意

- 施設の管理などにより、無線機器の使用が禁止されているところでは、本機を使用しないでください。
- 本機を複数で使用する場合、近距離（約 10 m 以内）で同時に通信しないでください。異なるチャンネル同士であっても、電波妨害が発生することがあります。
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。
- 通話のできる距離は地形や環境（天候や建物などの障害物）によって短くなることがあります。そのようなときは、少し場所を移動して運用してください。
- 通話のできる距離の目安は下記のとおりです。建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
 - ◆ 市街地：100 m ～ 200 m
 - ◆ 見通しのよい場所：1 km ～ 2 km
- 本製品は抗菌・抗ウイルスのセルフイール[®]を加工済です。セルフイール[®]はニチリンケミカル株式会社の登録商標です。
- その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

免責事項について

- ◆ 本機の故障・誤動作などにより、利用の機会（通話など）を逸したために発生した障害などの付随的損害については、弊社は一切その責任を負いかねます。
- ◆ お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

電波法に関するご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証を取得した、特定小電力トランシーバーです。本機裏面の工事設計認証ラベルはがさないでください。
- 本機を分解したり、改造したりして使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用したりすることは電波法により禁止されています。

防塵 / 防水性能について

本製品は設計段階において該当する防塵 / 防水性能の社内試験を行ないその性能を確認しておりますが、実際の使用においては下記の条件や注意事項をお守りください。

- 防水保護 IP67 相当の防塵 / 防水性能を備えていますが、実際のご使用にあたって、すべての状況で防塵 / 防水を保証するものではありません。
- 通常の使用状態で IP67 相当の防塵 / 防水性能が維持できる期間は 1 年です。（端子カバー、バッテリーカバー装着時）
※ 防塵 / 防水性能維持のための特別なメンテナンスプログラムは用意していません。
- 端子カバーやバッテリーカバーは確実に取り付けてから固定してください。また、取り付ける際には、微細なゴミ（微細な繊維、髪の毛、砂など）を挟んでいないか、ご確認ください。
- 石鹸水、洗剤、調味料、ジュース、海水、油など水道水以外のものをかけたり、浸けたりしないでください。また、高温のお湯や冷水に浸けたり、かけたりしないでください。
- 本機が濡れている状態で端子カバーやバッテリーカバーの開閉を行わないでください。
- スピーカー / マイク端子にオプションを接続していて、付属のマイクプラグ固定金具で使用している場合の無線機本体は IP54 の防塵 / 防水仕様となります。なお、オプション自体の防塵 / 防水性能は各オプション製品により異なります。
- 付属の充電器や AC アダプタは防水仕様ではありません。本機が濡れている状態では使用しないでください。
- イヤホン (HS, UHS シリーズ) を本機に単体で接続して使用する場合は、防塵 / 防水にはなりません。
- 本機に衝撃を与えた場合は、防塵 / 防水性能に影響を与える場合があります。

ご使用の前に

Bluetooth® 機能に関する表示 UBZ-BM51BTのみ

本機背面に貼られているラベルに記載の、Bluetooth 機能に関する表示について説明します。

	「2.4」	2.4 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
	「FH」	変調方式を表します (FHSS: 周波数ホッピング・スペクトラム拡散方式)。
	「1」	想定干渉距離を表します (10 m 以下)。
	「  」	全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア局の帯域を回避可能であることを意味します。

Bluetooth機能による電波干渉についてのご注意

本機の Bluetooth 機能を使用するときは、下記の内容についてご注意ください。

- Bluetooth に使用される 2.4 GHz 帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア局が運用されています。

本機の Bluetooth 機能を使用する場合は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、下記の事項に注意してください。

- 本機の Bluetooth 機能をオンにする前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、2.4GHz 帯のアマチュア局など (以降「他の無線局」という) が運用されていないことをご確認ください。
- 万一、本機の Bluetooth 機能により「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変更するか、本機の Bluetooth 機能をオフにしたうえで、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターへご連絡いただき、混信回避の処置についてご相談ください。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

株式会社 JVC ケンウッドは使用許諾のもとでこれらのマークおよびロゴを使用しています。

運用モードについて

本機は2つの運用モードを選択できます。

同じ運用モードのトランシーバー同士でのみ通信できます。

《「運用モードの設定」▶ p.35》

■ 交互通話モード(シンプレックス)

直接トランシーバー同士で通話するモードです。20チャンネルに対応し、従来機の11チャンネル(1～11)および9チャンネル(h1～h9)のどちらも使用できます。

《「交互通話モード(シンプレックス)での通信操作」▶ p.48》

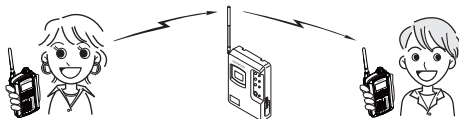


■ 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)

オプションの中継器《「オプション一覧」▶ p.105》を介して通話するモードです。安定して通話できる範囲が広がります。

27チャンネルに対応し、従来機の18チャンネル(1～18)および9チャンネル(h1～h9)のどちらも使用できます。

《「中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作」▶ p.50》



- 通話のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。

建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。

- ・市街地：100～200 m
- ・見通しのよい場所：1～2 km

ご使用前に

本機の付属品

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

Li-ion 電池 (UPB-8L)	1
充電器用 AC アダプタ	1
充電器	1
充電器連結用取付金具	1
充電器連結用ネジセット	1
ベルトフック (KBH-20)	1
ベルトフック取り付けねじセット	1
マイクプラグ固定金具	1
取扱説明書 (基本編)	1



- ◆ 保証書は、「取扱説明書 (基本編)」表面の左下部分をご覧ください。
- ◆ 付属品の保証期間は、無線機本体の保証期間と異なります。詳細は、「保証とアフターサービスについて」<< ● p.111 >>をご覧ください。

充電電池 (バッテリーパック) について

充電電池 (バッテリーパック) の使用可能時間 (バッテリーセーブ ON + Bluetooth OFF)

内蔵スピーカー使用時: 約 35 時間

イヤホンマイク使用時 (EMC-3A): 約 45 時間

※ **測定条件:** 送信 1 : 受信 1 : 待受 8 の使用時 (送信出力 10mW、室温 25℃)

※ 充電電池の使用可能時間は周囲温度、音量レベル、充電電池の劣化度合いなどの使用条件により変動します。

バッテリー残量表示について

バッテリー残量の目安を 3 段階で表示します。

1 個点灯になると、警告音が「ピーピーピーピー」と 4 回鳴り、バッテリー容量が低下していることをお知らせします。早めに電源をオフにして充電電池を充電してください。



3 個点灯
(満充電時)



2 個点灯
(充電準備)



1 個点灯
(要充電時)

バッテリーセーブについて

充電電池（バッテリーパック）の消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で約5秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作が行なわれるとバッテリーセーブは解除されます。

※ 下記機能が動作中の場合、バッテリーセーブが動作しません。

- ・簡易メニュー
- ・機能設定メニュー
- ・モニター
- ・オートチャンネルセレクト
- ・簡易スキャン
- ・セカンドチャンネルスキャン

充電電池（バッテリーパック）の特性について

- 充電 / 放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら充電電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電 / 放電したり、本機を使用したりすると寿命が短くなります。また、高温状態で保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- 充電電池を高温状態で放置すると使用できなくなります。充電電池が冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保管後は、バッテリー容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

使用済み充電式充電電池（バッテリーパック）の取扱注意事項

- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。



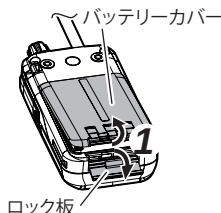
Li-ion 00
充電式

不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店、弊社営業担当窓口、または販売店へお持ちください。リサイクルにご協力お願いいたします。

充電電池の取り付け

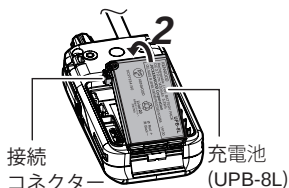
1 バッテリーカバーを取り外す

ロック板を解除して、バッテリーカバーを取り外します。



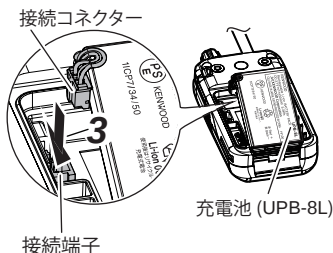
2 充電電池を取り付ける

機種名 (UPB-8L) が記載されているラベル面を表にし、充電電池の接続コネクタが左上になるように取り付けます。



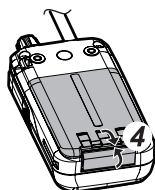
3 接続端子に接続コネクタを差し込む

充電電池の接続コネクタを、本機の接続端子に差し込みます。



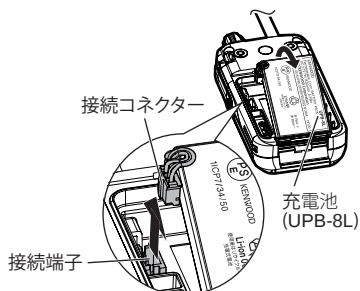
4 バッテリーカバーを取り付ける

バッテリーカバー上側を本体の溝に合わせて取り付け、ロック板を「カチッ」と音がするまで押し込みます。



■ 充電電池を取り外すときは

接続端子から接続コネクタを外し、充電電池を持ち上げて取り外します。



ご使用の前に



- ◆ 誤って異なる方向に充電電池を取り付けると、充電電池が取り出せなくなる場合があります。充電電池が取り出せなくなったら、本機を振って充電電池を出して、正しく取り付けください。このとき、充電電池を落とさないように注意してください。
- ◆ お買い上げ時に充電電池は満充電されていません。お使いになる前に必ず満充電にしてお使いください。
- ◆ 付属の充電器以外で充電電池を充電しないでください。
- ◆ 長時間お使いにならないときは、充電電池を本機から取り出してください。
- ◆ 充電電池の接続コネクタをショートさせたり、充電電池を火中に投げたりしないでください。また、充電電池を分解しないでください。

ご使用の前に

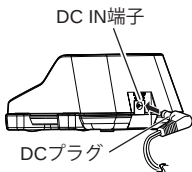
充電電池を充電する

本機をはじめてお使いになるときや、使用後は充電電池を充電してください。

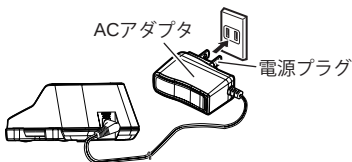


- ◆ 本機が濡れたままや汚れたままで充電すると、故障の原因になります。本機についた水分や汚れを乾いた布でよくふき取ってから充電器に差し込んでください。
- ◆ 充電するときは、本機の電源をオフにしてください。
- ◆ 充電電池の残容量がゼロ近くになると、本機の電源がオン/オフを繰り返して、【**⏻**】を押しても本機の電源をオフにできないことがあります。この場合は本機を充電器に差し込み、5～10分たって電源がオン/オフを繰り返さないようになってから、本機の電源をオフにして、充電してください。

1 ACアダプタのDCプラグを充電器のDC IN端子に差し込む



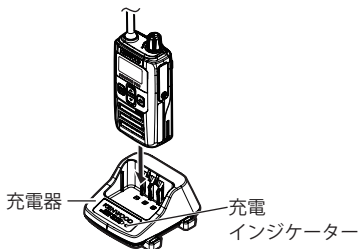
2 電源プラグをACコンセントに差し込む



次のページへつづく

3 本機を充電器に差し込む

- 充電中は充電インジケータが赤色に点灯します。
- 充電時間の目安は3時間です。



4 充電が完了したら、本機を充電器から抜き取る

- 充電が完了すると、充電インジケータが緑色に点灯します。

充電インジケータが点灯しない、または赤色点滅する場合は・・・

- 充電電池（バッテリーパック）が異常である
→ 新しい充電電池（バッテリーパック）を使用してください。
- 充電端子部が接触不良になっている
→ 端子を綿棒や乾いた布で拭いてから、再度充電してください。
- 充電電池（バッテリーパック）が極端に高温または低温になっている
→ 室温に戻してから、再度充電してください。

ご使用前に



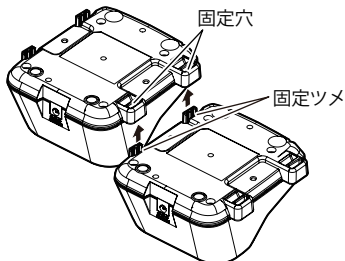
- ◆ AC アダプタのコードに足を引っ掛けたりすると、充電器や本機の落下・破損の原因となります。コードに無理な力が加わるような場所への設置は避けてください。
 - ◆ AC アダプタは専用の付属品を使用してください。付属品以外のものを使用した場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。
 - ◆ 充電器は本機専用です。他の機器を充電器に差し込まないでください。
 - ◆ 充電端子を金属物などでショートさせないでください。
 - ◆ 満充電しても使用時間が短くなってきた場合は、充電電池の寿命です。このまま充電/放電を繰り返すと、液漏れの原因になることがあります。新しい充電電池をお買い求めください(寿命の目安は充電/放電で300回です)。
 - ◆ 充電器の端子は、ゴミなどが付着しないように綿棒や乾いたやわらかい布で時々拭いてください。
 - ◆ 充電器の近くで本機を使用すると、充電器が誤動作することがあります。
 - ◆ 本機の電源をオンにした状態で充電器に差し込むと、本機のバッテリー残量表示が満充電表示になりますが、充電完了の表示ではありません。電源をオフにして充電器の充電インジケータが緑色になるまで充電してください。
-

充電器の連結

複数の充電器を並べて設置したい場合は、付属の連結用取付金具とネジを使用して充電器同士を連結することができます。

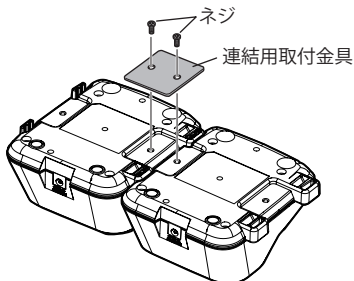
1 充電器を連結する

充電器底にある固定ツメと固定穴を使用して連結します。



2 連結用取付金具を取り付ける

連結用取付金具をネジで2台の充電器に取り付けます。

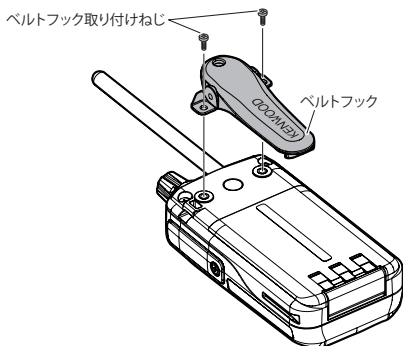


- ◆ 連結した状態で充電器を持ち上げたり、移動させたりしないでください。
- ◆ オプションの AC アダプター UBC-8ML を使用すると、1 つのコンセントで最大 6 台までの充電器を接続することが可能です。

ベルトフックの取り付け

付属のベルトフック取り付けねじセット (M3 × 4mm) を使用して取り付けます。

ベルトフックを本機背面のねじ穴に合わせて、ベルトフック取り付けねじで止めます。



- ◆ ベルトフック取り付けねじには緩み防止剤が塗布してあります。何度も脱着すると、ねじが緩みやすくなります。

オプション機器を接続する

イヤホン付マイクロホン、スピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを取り付けるときは、接触不良を防ぎ、防水性能を維持するため、必ずマイクプラグ固定金具を取り付けてください。



- ◆ オプション機器を接続するときは、必ず電源をオフにしてください。電源を入れたままオプション機器を接続すると、故障の原因となります。
- ◆ マイクプラグ固定金具を取り付けたときは、本機の防塵 / 防水性能は IP54 になります。

ご使用の前に

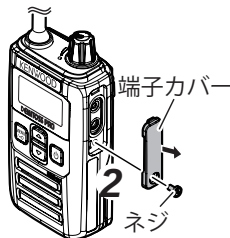
1 本機の電源をオフにする

2 端子カバーを外す

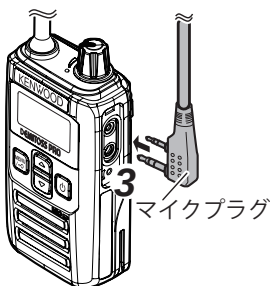
プラスドライバー (#1) でネジを左方向に回して取り外し、端子カバーを外します。



- ◆ 取り外した端子カバーとネジは無くさないようご注意ください。



3 オプション機器のマイクプラグをスピーカー/マイク端子に接続する

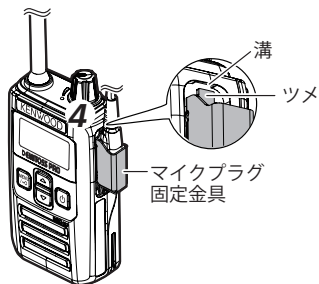


次のページへつづく

ご使用の前に

4 マイクプラグ固定金具を取り付ける

金具の上部あるツメをスピーカー/マイク端子上部の溝に差し込みます。



5 マイクプラグ固定金具を固定する

ネジをプラスドライバー(#1)で右方向に回し確実に締め付けてください。



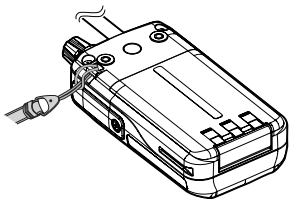
- ◆ 断線防止のため、マイクプラグを取り外すときは、プラグ部を持って取り外してください。

ストラップを取り付ける

オプションのネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、本機背面上部のストラップ用穴を使用してください。

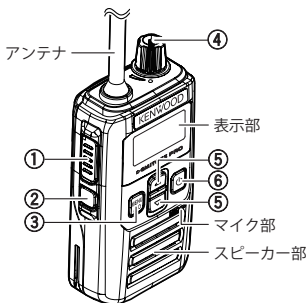


- ◆ ストラップを持って本機を振り回したりしないでください。故障やけがの原因となります。



各部の名称と機能

各キーの機能



① 【PTT】キー

送信するときに押します。離すと待ち受け状態になります。

② 【PF】キー

本体 PF キー設定で設定した動作を行ないます。“oFF” に設定されている場合は動作しません。《 ➡ p.92 》

③ 【MENU】キー

■ 押すと簡易メニューを表示します。《 ➡ p.36 》

■ 押しながら電源をオンにすると、機能 (基本) 設定メニューが表示されます。《 ➡ p.39 》

■ このキーと【▲】を押しながら電源をオンにすると、機能 (拡張) 設定メニューが表示されます。《 ➡ p.41 》

■ 長押し (1 秒以上) するごとに、キーロックをオン / オフします。長押しの秒数は、キーロック長押し時間設定により 5 秒まで延長できます。《 ➡ p.71 》

④ 音量つまみ

右に回す：音量を大きくします。

左に回す：音量を小さくします。

次のページへつづく

各部の名称と機能

⑤ 【▲】【▼】キー

【▲】：チャンネル変更 (UP) します。長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネルが変わります。

【▼】：チャンネル変更 (DOWN) します。長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネルが変わります。

⑥ 【】キー

0.5 秒以上押すごとに電源をオン / オフします。

表示部のアイコン一覧



表示	説明	関連 ページ
	充電電池 (バッテリーパック) の残量 (目安) が表示されます。	
	: 満充電	
	: 交換・充電準備してください	
	: 早めに交換・充電してください	

p.18

次のページへつづく

表示	説明	関連 ページ
秘	ボイススクランブル（秘話）機能を“on”に設定しているときに表示されます。＜秘話アイコン＞ 送受信時に、他人に通信内容が容易に知られないようにします。	p.37
🔑	キーロック機能が働いているときに表示されます。操作キーが意図せず何かに触れての誤操作を防ぎます。	p.71
VOX	VOX 機能をオンに設定しているときに表示されます。 ヘッドセットやイヤホンマイクが接続されているときに、【PTT】を押さずに音声入力により送信が開始されます。	p.74
送	送信中に表示されます。＜送信アイコン＞	—
受	受信中に表示されます。＜受信アイコン＞	—
—	PTT ホールド設定を“on”に設定しているときに＜送信アイコン＞の下に表示されます。（送信中は点滅します） 【PTT】を押したあと、手を離しても送信を継続し、簡易的なハンズフリー通信ができます。	p.82
グループ外	設定したグループ番号と異なるグループ番号の信号が受信されたときに表示されます。 グループ番号を相手と合わせるか、他のチャンネルに変更してください。	p.70

各部の名称と機能

表示	説明	関連 ページ
	運用モードを中継器アクセスモード (セミデュプレックス) に設定したときに表示されます。	p.35
	機能設定時、設定項目を選択中に表示されます。	—
	機能設定時、設定値を選択中に表示されます。	—
	チャンネル、機能設定項目が表示されます。	—
	グループ番号、設定値が表示されます。	—
2nd	【PF】キー、【REM1～3】キーのどれかにセカンドチャンネル機能を設定しているときに表示されます。 待受けチャンネルの他に、セカンドチャンネルに設定したチャンネルでの呼出しを待ち受ける状態になります。	p.58
	簡易スキャン設定を“on”に設定し、簡易チャンネル1～3を設定しているときに、簡易スキャン機能を動作させると表示されます。 待受けチャンネルの他に、簡易チャンネルに設定したチャンネルでの呼出しを待ち受ける状態になります。	p.54
	Bluetooth ヘッドセットが接続されているときに表示されます。登録された Bluetooth ヘッドセットが見つからない場合は点滅します。 Bluetooth 機能を“on”に設定し、Bluetooth 機器ペアリング設定にて Bluetooth ヘッドセットを登録してください。 UBZ-BM51BTのみ	p.94 p.95

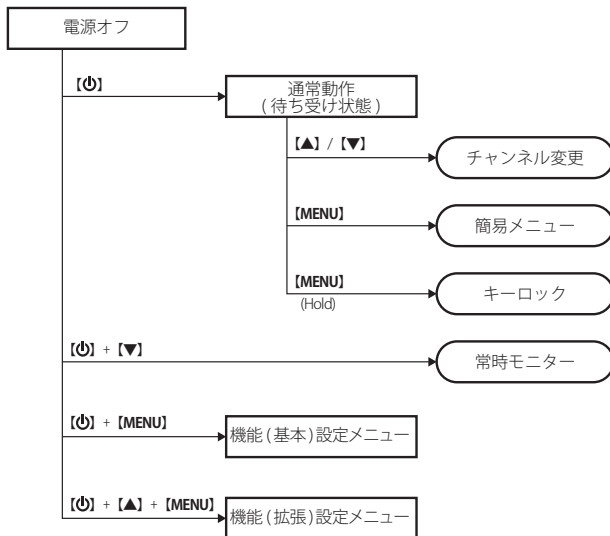
各キーの動作図

本機の電源がオフの状態から各キーを操作したときの動作です。

【】：本機のキー

【】 + 【】：対象のキーを同時に押す

(Hold)：キーの長押し



基本操作

基本操作一覧

操作	操作部位	説明	参照 ページ
電源をオン/オフする	【 ⏻ 】キー	0.5 秒以上押すごとに電源をオン/オフします。	-
送信する	【PTT】キー	このキーを押している間、通話ができます。	-
チャンネルを変更する	【 ▲ 】キー	チャンネル変更 (UP) します。機能が設定されていない場合は、長押し (1 秒以上) すると連続してチャンネルが変わります。	-
	【 ▼ 】キー	チャンネル変更 (DOWN) します。機能が設定されていない場合は、長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネルが変わります。	-
音量を調節する	音量つまみ	右に回す：音量を大きくします。 左に回す：音量を小さくします。 	-
簡易メニューを表示する	【MENU】キー	簡易メニューが表示され、グループ番号、ボイススクランブルを設定できます。	p.36
キーロックをオン/オフする		長押し (1 秒以上) するごとに、キーロックをオン/オフします。長押しの秒数は、キーロック長押し時間設定により 5 秒まで延長できます。	p.71
PF キーに設定した動作を行なう	【PF】キー	本体 PF キー設定で設定した動作を行ないません。 "oFF" に設定されている場合は動作しません。	p.92

次のページへつづく

操作	操作部位	説明	参照ページ
機能（基本）設定項目を表示する	【  】キー + 【MENU】キー	本機の電源がオフになっている状態で、【  】キーと【MENU】キーを同時に押します。	p.39
機能（拡張）設定項目を表示する	【  】キー + 【▲】 + 【MENU】キー	本機の電源がオフになっている状態で、【  】キー、【▲】キーと【MENU】キーを同時に押します。	p.41

運用モードの設定

通信方法により運用モードを設定してください。



- ◆ 初期値では、“SP”（シンプレックスモード）に設定されています。

- 1 【】を押し、一度電源を切る
- 2 【MENU】を押しながら【】を押し、電源を入れる
設定項目が点滅した状態で表示されます。
- 3 【▲】または【▼】を押し、“mod”を選択する



——— 設定項目（点滅）

- 4 【MENU】を押す
設定項目が確定して、設定値が点滅します。
- 5 【▲】または【▼】を押し、運用モードを選択する

SP	交互通話モード（シンプレックス）で通信します。
SdP	中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で通信します。

次のページへつづく



設定値 (点滅)

- “SdP”に設定すると、“中継”が表示されます。

6 【MENU】を押す

設定値が確定して、設定項目選択に切り替わります。

7 【PTT】を押す

メニューが終了します。

簡易メニュー

グループ番号とボイススクランブル機能の設定をします。

グループ番号が“oFF”以外に設定されている場合、【MENU】を押すことで設定する機能が切り替わります。

(待ち受け画面▶「GRP」▶「SCR」▶待ち受け画面)

グループ番号を設定する

グループ番号を“oFF”に設定している場合、他のグループと同じチャンネルで通信すると、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間同士でグループ番号を設定しておく、他のグループの音声が届くことなく通信ができます。

1 【MENU】を押して、“GRP”を選ぶ

待ち受け状態のときに【MENU】を押すと、“GRP”が表示されます。

次のページへつづく

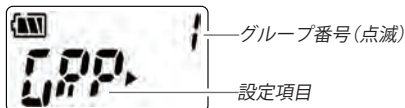
2 【▲】または【▼】を押す

グループ番号が切り替わります。

設定範囲

oFF、1～38

- 【▲】または【▼】を押し続けると、押している間連続してグループ番号が切り替わります。



3 【PTT】を押す

設定を確定して簡易メニューが終了します。

または 10 秒間何もキーを操作しなくても、設定を確定して簡易メニューが終了します。

- グループ番号が“oFF”のときは、【MENU】を押しても終了します。

ボイススクランブル(秘話)機能を設定する

グループ番号を設定するとボイススクランブル機能が使用できます。他人に通信内容を知られたくないときに設定します。

ボイススクランブル機能を“on”にすると、他のグループの人が同じグループ番号に設定しても通信内容が聞き取りにくくなります。



- ◆ グループ番号とチャンネル番号、ボイススクランブル機能の設定が一致すると、第三者のトランシーバーでも通信を傍受できるため、ご注意ください。

1 グループ番号を“oFF”以外に設定したら、【MENU】を押して、“SCR”を選ぶ

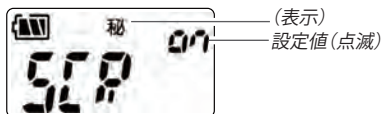
次のページへつづく

2 【▲】または【▼】を押す

設定値を選択します。

oFF ボ이스スクランブル機能が動作しません。

on ボ이스スクランブル機能が動作します。



- “on”に設定すると“秘”が表示されます。

3 【PTT】を押す

設定を確定して簡易メニューが終了します。

または 10 秒間何もキーを操作しなくても、設定を確定して簡易メニューが終了します。

- 【MENU】を押しても終了します。



- ◆ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、＜受信アイコン＞を表示します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。詳しくは≪「グループ番号不一致通知」▶ p.70 ≫をご覧ください。
- ◆ 運用モードを中継器アクセスモード（セミデュプレックス）に設定しているときは、チャンネル番号とグループ番号は中継器の設定と同じにします。
- ◆ チャンネル番号、グループ番号、ボイススクランブルの設定は通信する相手のトランシーバーと設定を合わせてください。すべての設定が合っていないと通信ができません。
- ◆ グループ番号を“oFF”に設定すると、ボイススクランブル機能も“oFF”になります。
- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、＜受信アイコン＞が点滅することがあります。

機能 (基本) 設定メニュー

本機でよく使用する基本的な機能を設定できます。



- ◆ グループ番号とボイススクランブル (秘話) 機能の設定を除きます。《「簡易メニュー」▶ p.36》
- ◆ 機能 (基本) 設定の機能は、機能 (拡張) 設定でも設定することができます。《「機能 (拡張) 設定メニュー」▶ p.41》

機能 (基本) 設定のしかた



- ◆ キーロック状態のまま電源を切った場合、機能 (基本) 設定メニューが表示されず、待ち受け状態となります。キーロックを解除してから、機能設定を行なってください。
《「キーロックを解除する」▶ p.72》

1 【P】を押し、一度電源を切る

2 【MENU】を押しながら【P】を押し、電源を入れる
設定項目が点滅した状態で表示されます。

設定項目(点滅)

3 【▲】または【▼】を押す

押すごとに設定項目が切り替わります。



4 【MENU】を押す

設定項目が確定して、設定値が点滅します。

基本操作

5 【▲】または【▼】を押す

設定値を選択します。



6 【MENU】を押す

設定値が確定して、設定項目選択に切り替わります。

7 【PTT】を押す

メニューが終了します。

機能 (基本) 設定項目一覧

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
mod	運用モード設定 (Operation M ode)	SP / SdP (SP: S implex、 SdP: S emi- D uplex)	SP	p.35
SAV	バッテリーセーブ設定 (Battery S ave)	oFF / on	on	p.84
Vo	VOX レベル設定 (V ox Level)	oFF/1/2/3/4/5	oFF	p.74
Sql	スケルチレベル設定 (S quelch L evel)	oFF/1/2/3	2	p.90
C--	チャンネル非表示設定 (C hannel -- D isplay)	oFF/on/LoC	oFF	p.88
bt	Bluetooth 設定 (B lue t ooth Function)	oFF/on	oFF	p.94
PAR	Bluetooth ペアリング (Bluetooth P airing Mode)	-	-	p.95

機能 (拡張) 設定メニュー

各機能の設定をします。

設定項目は下記のカテゴリーに分かれています。

《「各カテゴリーの設定項目一覧」▶ p.44 》

表示	カテゴリー	内容
mod	モードメニュー	運用モードを設定するメニューです。
FnC	ファンクションメニュー	本体の各種機能を設定するメニューです。
KEy	キー・スキャンメニュー	本機の【PF】、およびリモコンマイクロホンのリモコンキーに機能を設定するメニューです。
EmG	エマージェンシーメニュー	エマージェンシー機能を設定するメニューです。
bt	ブルートゥースメニュー	Bluetooth 機能を設定するメニューです。 <u>(UBZ-BM51BTのみ)</u>

機能 (拡張) 設定のしかた



- ◆ キーロック状態のまま電源を切った場合、機能 (拡張) 設定メニューが表示されず、待ち受け状態となります。キーロックを解除してから、機能設定を行なってください。

《「キーロックを解除する」▶ p.72 》

1 【**⏻**】を押し、一度電源を切る

2 【MENU】と【▲】を押しながら【**⏻**】を押し、電源を入れる
カテゴリーが表示されます。



カテゴリー(点滅)

次のページへつづく

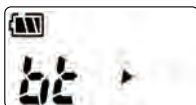
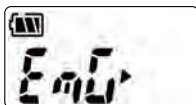
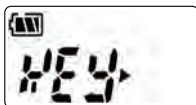
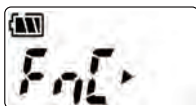
3 【▲】または【▼】を押す

カテゴリーが切り替わります。

【▲】を押すと順送りで切り替わります。

【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

設定したいカテゴリーを選択します。



次のページへつづく

4 【MENU】を押す

選択したカテゴリーの設定項目が点滅した状態で表示されます。



例:FnC を選択したとき

5 【▲】または【▼】を押して、設定項目を選択する

【▲】を押すと順送りで切り替わります。

【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

- 【PF】または【P】を押すか、【MENU】を長押しすると、カテゴリー選択に戻ります。

6 【MENU】を押す

設定項目が確定して、設定値が点滅します。



7 【▲】または【▼】を押して、設定値を選択する

【▲】を押すと順送りで切り替わります。

【▼】を押すと逆送りで切り替わります。

- 【PF】または【P】を押すか、【MENU】を長押しすると、選択した設定値を確定せずに設定項目選択に戻ります。

8 【MENU】を押す

設定値を確定して、設定項目選択に戻ります。

- 設定が確定したときは、「ピ、ピ、ピ」と確定音が鳴ります。

9 【PTT】を押す

機能 (拡張) メニューが終了します。

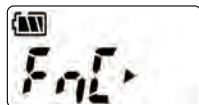
各カテゴリの設定項目一覧

モードメニュー “mod”



表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
mod	運用モード設定	SP/SdP	SP	p.35
tPw	送信パワー設定	L/H	H	p.78

ファンクションメニュー “FnC”

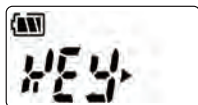


表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
bLt	バックライト設定	oFF/ACt/Any/on	ACt	p.86
C--	チャンネル非表示設定	oFF/on/LoC	oFF	p.88
bEP	ビープ音設定	oFF/on	on	p.89
ton	通話告知音設定	oFF/SdP/ALL	SdP	p.79
P-R	通話告知音動作設定	P-/R/P-R	P-	p.80
SqL	スケルチレベル設定	oFF/1/2/3	2	p.90
mCi	マイク感度 (内蔵) 設定	L/m/H	m	p.76
mCE	マイク感度 (外部) 設定	L/m/H	m	p.77
CPd	コンパンダー設定	oFF/on	oFF	p.77
t-i	送信禁止設定	oFF/on	oFF	p.81

次のページへつづく

表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
Vo	VOX レベル設定	oFF/1/2/3/4/5	oFF	p.74
Vdy	VOX 遅延時間設定	03/05/10/15/30	05	p.75
PHd	PTT ホールド設定	oFF/on	oFF	p.82
R-t	PTT ホールド自動復帰設定	oFF/on	oFF	p.83
APo	オートパワーオフ設定	oFF/on	oFF	p.85
SAV	バッテリーセーブ設定	oFF/on	on	p.84
Ctn	コールトーン音色設定	1/2/3/4/5/6/7/8/9/10	1	p.69
LoC	キーロック長押し時間設定	1/2/3/4/5	1	p.71
hCH	チャンネル番号切替設定	oFF/on	oFF	p.87

キー・スキャンメニュー“KEy”



表示	設定項目	設定値	初期値	参照ページ
PF	本体 PF キー設定	oFF/mon/ACS/Ct/Att/EmG/iSP/2nd/ESC	Att	p.92
RE1	リモコンキー 1 設定	oFF/mon/ACS/Ct/Att/EmG/iSP/2nd/ESC	oFF	p.93
RE2	リモコンキー 2 設定		oFF	
RE3	リモコンキー 3 設定		oFF	
ACS	本体オートチャンネルセレクトキー設定	oFF/on	oFF	p.51

次のページへつづく

基本操作

表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
2CH	セカンドチャンネル設定	1 ~ 11/12 ~ 20 (h1 ~ h9)、1 [中継] ~ 18 [中継]/19 [中継] ~ 27 [中継] (h1 [中継] ~ h9 [中継])	1	p.58
2GR	セカンドグループ番号設定	oFF/1 ~ 38	oFF	p.59
2SR	セカンドボイススクランブル設定	oFF/on	oFF	p.59
2bP	セカンドチャンネルビープ音設定	oFF/on	on	p.61
2SC	セカンドチャンネルスクランブル再開時間設定	2/5/10	2	p.62
ESC	簡易スキャン設定	oFF/on	oFF	p.54
EC1	簡易チャンネル 1 設定	oFF、1 ~ 11/12 ~ 20 (h1 ~ h9)、1 [中継] ~ 18 [中継]/19 [中継] ~ 27 [中継] (h1 [中継] ~ h9 [中継])	oFF	p.55
EC2	簡易チャンネル 2 設定		oFF	
EC3	簡易チャンネル 3 設定		oFF	

エマージェンシーメニュー “EmG”

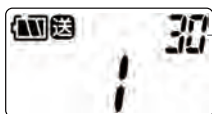


表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
AUd	エマージェンシーオーディオ動作設定	SiL/ESP/AUd	AUd	p.101
bGt	バックグラウンドトーン設定	oFF/on	on	p.102
KEy	エマージェンシーキー動作時間設定	2/4/6	2	p.103
CyC	エマージェンシー送信サイクル	5/10/15/20/25/30/inF	10	p.104

ブルートゥースメニュー “bt” (UBZ-BM51BTのみ)

表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
bt	Bluetooth 設定	oFF/on	oFF	p.94
PAR	Bluetooth ペアリング設定	-	-	p.95
btm	Bluetooth マイクの入力 切替設定	bt/noR	bt	p.97
bRS	Bluetooth の初期化	-	-	p.98

通信時間の制限について



残り時間(点滅)

本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通信終了の 30 秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10 秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3 分を経過すると送信禁止音「プー」とともに送信を停止し、待ち受け状態に戻ります。続けて通信するときには、送信停止 2 秒後に【PTT】を押して相手呼び出してください。

- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で送信パワーを“L”に設定している場合は、通信時間の制限はありません。
 <<「送信パワー設定」▶ p.78 >>
- PTT ホールド設定を“on”に設定している場合は、通信時間の 3 分を経過すると無音で送信を停止します。
 <<「PTT ホールド設定」▶ p.82 >>

交互通話モード(シンプレックス)での通信操作

交互通話モード(シンプレックス)で通信する場合の基本通信手順です。

- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)のトランシーバーとは通信できません。
- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作は、<<「中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作」▶▶ p.50 >>をご覧ください。

1 【P】を押す(0.5秒以上)

電源が入ると、起動音が鳴り、チャンネル番号が表示されます。

2 音量つまみを半分ぐらい右または左に回し、音量を調整する

右に回す：音量が大きくなります。

左に回す：音量が小さくなります。



3 【▲】【▼】を押して通信するチャンネル番号に切り替える

【▲】を押すとチャンネル番号が上がります。

【▼】を押すとチャンネル番号が下がります。



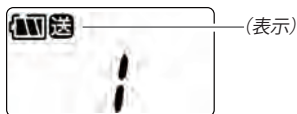
チャンネル番号

【▲】または【▼】を押し続けると、押し続けている間連続してチャンネル番号が切り替わります。

次のページへつづく

4 【PTT】を押しながら話す

<送信アイコン>が表示され、送信状態になります。



マイク部から口を 5 cm ぐらい離してお話してください。

5 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると<受信アイコン>が表示され、相手の音声聞こえます。



音量つまみを回し好みの音量に調整してください。

6 手順4と5の操作を繰り返して、通信する

本機を使用しないときは【】を押し (0.5 秒以上) 電源を切ります。



- ◆ 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手のトランシーバーと共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- ◆ トランシーバー間の距離が近い (10 m 以内) と「18 (h7) と 1」、「19 (h8) と 2」、「20 (h9) と 3」のチャンネル間で混信をおこす場合があります。多数のグループが近距離で通信する場合は、12 (h1) ~ 20 (h9) または 1 ~ 11 チャンネル内で通信するか、グループ番号を設定して混信を軽減してください。詳しくは《「グループ番号を設定する」》p.36 をご覧ください。
- ◆ 本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通信終了の 30 秒前になると、右上文字表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。詳しくは《「通信時間の制限について」》p.47 をご覧ください。

基本操作

中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作

最初に中継器に接続してから、相手を呼び出して通信します。

- 双方のチャンネル番号とグループ番号を中継器のチャンネル番号とグループ番号に合わせておきます。

1 【PTT】を押し続ける

中継器へのアクセスを確認します。

- アクセス成功音「プルッ」が鳴ったら【PTT】を押したままで、手順2へ移ってください。
- アクセスエラー音「プッププッ…」が鳴ったら手順1の操作を繰り返します。

2 【PTT】を押しながら話す

<送信アイコン>が表示され、送信状態になります。



マイク部から口を5cmぐらい離してお話してください。

- 途中、中継器とのアクセスが外れてアクセスエラー音が鳴ったら、再度手順1から操作してください。

3 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると<受信アイコン>が表示されます。



4 音量つまみを回して好みの音量に調整する

手順2と3の操作を繰り返して、通信します。

基本機能

オートチャンネルセレクト

チャンネル番号を選択することなく、自動的に同じグループ番号のトランシーバーと通信する機能です。同じグループ番号で使用されているチャンネルを見つけると、そのチャンネルを受信します。また、オートチャンネルセレクト中に【PTT】を押して送信すると、空いているチャンネルで送信します。

本体オートチャンネルセレクトキー設定

この機能を“on”に設定し、本機の【▲】を1秒以上押すとオートチャンネルセレクトが動作します。



- ◆ オプションのリモコン対応マイクロホンからオートチャンネルセレクト機能を動作したい場合は、リモコンキー1～3設定のどれかを“ACS”に設定してください。◀ ◀ p.93 ▶

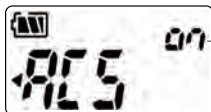
1 “KEY” (キー・スキャンメニュー) 内の設定項目を表示し、“ACS”を選択する

◀ 「機能 (拡張) 設定のしかた」 ▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF 本機の【▲】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。

on 本機の【▲】でオートチャンネルセレクトが動作します。



設定値 (点滅)



- ◆ 運用モードが中継器アクセスモード (セミデュプレックス “SdP”) に設定されている場合、オートチャンネルセレクトの設定に関わらず、本機の【▲】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。

3 メニューを終了する

オートチャンネルセレクトを使う

オートチャンネルセレクトを使用する前に以下の設定を確認します。

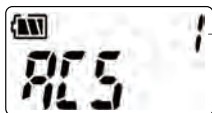
- グループ番号設定◀ p.36 ▶を「1～38」に設定する。
- 本機の【▲】を使用するとき：
本体オートチャンネルセレクトキー設定◀ p.51 ▶を“on”に設定する。
- 本機の【PF】を使用するとき：
本体 PF キー設定◀ p.92 ▶で“ACS”に設定する。
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー 1～3 設定◀ p.93 ▶のどれかを“ACS”に設定する。



- ◆ 運用モードの設定◀ p.35 ▶が“SdP”のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。

1 本機の【▲】を1秒以上押す、またはオートチャンネルセレクト機能が設定されたキーを1秒以上押す

“ACS”と表示され、オートチャンネルセレクトを開始します。



— グループ番号

2 【PTT】を押し続ける

空いているチャンネルで10秒ほど停止します。停止中に【PTT】を押したまま呼びかけます。呼びかけたら【PTT】から指を離し、相手がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。



- ◆ 空いているチャンネルで10秒以上相手からの応答がないと、オートチャンネルセレクトのスキャンを再開します。
- ◆ 相手のトランシーバーも、オートチャンネルセレクトを使用してください。

3 相手の応答が終わり＜受信アイコン＞が消えてから、【PTT】を押して話し始める

次のページへつづく



- ◆ グループ番号が“oFF”のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。
- ◆ オートチャンネルセレクトはグループの一致する受信信号を検索するため、送信始めの音声を受信端末で途切れやすくなります。【PTT】を押してから、一息おいてから話すことで、その音声途切れを防止することができます。

オートチャンネルセレクトを解除する

1

本機の【▲】、【▼】、【MENU】を押す、またはオートチャンネルセレクト機能が設定されたキーを1秒以上押す待ち受け状態に戻ります。



- ◆ オートチャンネルセレクト中にモニター機能◀ p.67 ▶を使用するとスキャンが一時停止して、チャンネルをモニターできます。

簡易スキャン

簡易チャンネル1～3に設定したチャンネルでの通信ができます。
簡易スキャン設定を“on”に設定し、簡易チャンネル1～3のうち1つ以上にチャンネルを設定（“oFF”以外に設定）している場合に、簡易スキャン機能が動作可能になります。

簡易スキャン設定

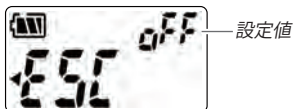
簡易スキャン機能のオン/オフを設定します。

- 1 “KEy”（キー・スキャンメニュー）内の設定項目で、“ESC”を選択する

≪「機能（拡張）設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	簡易スキャン機能は動作しません。
on	簡易スキャン機能が動作可能状態になります。本機の【▼】または簡易スキャン機能を設定したキーを1秒以上押すことで簡易スキャンが動作します。



- 3 メニューを終了する

簡易チャンネル1～3設定

簡易スキャンで使用する簡易チャンネルを設定します。

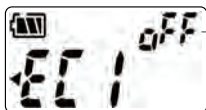
簡易チャンネルは3つ(“EC1”～“EC3”)まで設定できます。

- 1 “KEy”(キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“EC1”または“EC2”、“EC3”を選択する

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、簡易スキャンで使用するチャンネルを選択する

oFF	チャンネル設定なし
1～11、 12～20(h1～h9)	シンプレックスモードのチャンネルを設定します。
1[中継]～18[中継]、 19[中継]～27[中継] (h1[中継]～h9[中継])	セミデュプレックスモードのチャンネルを設定します。



設定値

例:簡易チャンネル“1”を設定する場合



- ◆ 設定値のチャンネルは、運用モードに関わらずシンプレックス、セミデュプレックスすべてのチャンネルから選択できます。
- ◆ 簡易チャンネルのグループ番号、ボイススクランブルは、待受けチャンネルの設定と同じ設定になります。
≪「簡易メニュー」▶ p.36 ≫

- 3 メニューを終了する

簡易スキャンを使う

簡易チャンネル1～3に設定したチャンネルと待受けチャンネルのスキャン動作を行ないます。

簡易スキャンを使用する前に以下の設定を確認します。

- 簡易スキャン設定◀ p.54 ▶を“on”に設定する。
- 本機の【▼】を使用するとき：
簡易スキャン設定◀ p.54 ▶を“on”に設定する。
- 本機の【PF】を使用するとき：
本体 PF キー設定◀ p.92 ▶を“ESC”に設定する。
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー1～3設定◀ p.93 ▶のどれかを“ESC”に設定する。

1 本機の【▼】を1秒以上押す、または簡易スキャン機能が設定されたキーを1秒以上押す

簡易スキャンが開始されると、画面に待受けチャンネルとが表示されます。



2 簡易チャンネルまたは待受けチャンネルを受信したら、【PTT】を押す

簡易チャンネルを受信した場合：

“”が点滅します。受信終了後、2秒以内に【PTT】を押すと簡易チャンネルで送信を開始します。



例：簡易チャンネルに“2”を設定している場合

次のページへつづく

■ 待受けチャンネルを受信した場合

簡易スキャンが一時停止され、“”が消灯します。受信してから2秒以内に【PTT】を押すと、送信されます。



- ◆ 簡易チャンネルまたは待受けチャンネルの受信後または、通信終了後から2秒経過すると簡易スキャンを再開し、画面に待受けチャンネルと“”が表示されます。

■ 簡易スキャンを解除する

簡易スキャン中とスキャン一時停止中に以下の操作をすると、無効音が鳴って簡易スキャンを終了します。

- 【▲】、【▼】、【MENU】のどれかを押す
- “ACS”が設定されたキーを長押しする
- “ESC”が設定されたキーを長押しする

セカンドチャンネルスキャン

待受けチャンネルの他に、セカンドチャンネルに設定したチャンネルでの通信、送信ができます。

本体 PF キー設定、リモコンキー 1 ～ 3 設定のどれかに “2nd” が設定されている場合、セカンドチャンネルスキャン機能が動作します。

≪「本体 PF キー設定」➡ p.92 ≫

≪「リモコンキー 1 ～ 3 設定」➡ p.93 ≫

セカンドチャンネル設定

セカンドチャンネルとして使用するチャンネルを設定します。

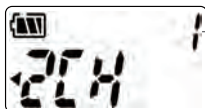
- 1 “KEy” (キー・スキャンメニュー) 内の設定項目で、“2CH” を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」➡ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、セカンドチャンネルとして使用するチャンネルを設定します。

1 ～ 11、 12 ～ 20 (h1 ～ h9)	シンプレックスモードのチャンネルを設定します。
------------------------------	-------------------------

1 [中継] ～ 18 [中継]、 19 [中継] ～ 27 [中継] (h1 [中継] ～ h9 [中継])	セミデュプレックスモードのチャンネルを設定します。
---	---------------------------



設定値 (点滅)



- ◆ 設定値のチャンネルは、運用モードに関わらずシンプレックス、セミデュプレックスすべてのチャンネルから選択できます。

セカンドグループ番号設定

セカンドチャンネルで使用するグループ番号を設定します。

グループ番号を“oFF”に設定している場合、他のグループと同じチャンネルで通信すると、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間同士でグループ番号を設定しておく、他のグループの音声聞こえることなく通信ができます。

- 1 “KEy” (キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“2GR”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、グループ番号を選択する

設定範囲

oFF、1 ～ 38



グループ番号 (点滅)

- 3 メニューを終了する

セカンドボイススクランブル設定

セカンドチャンネルにボイススクランブル機能を設定します。

セカンドグループ番号を設定するとボイススクランブル機能が使用できます。

他人に通信内容を知られたくないときに設定します。

ボイススクランブル機能を“on”にすると、他のグループの人が同じグループ番号に設定しても通信内容が聞き取りにくくなります。



- ◆ グループ番号とチャンネル番号、ボイススクランブル機能の設定が一致すると、第三者のトランシーバーでも通信を傍受できるため、ご注意ください。

次のページへつづく

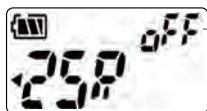
1 “KEy” (キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“2SR”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF ボ이스スクランブル機能が動作しません。

on ボ이스スクランブル機能が動作します。



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する



- ◆ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、＜受信アイコン＞を表示します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。詳しくは≪「グループ番号不一致通知」▶ p.70 ≫をご覧ください。
- ◆ 運用モードを中継器アクセスモード (セミデュプレックス) に設定しているときは、チャンネル番号とグループ番号は中継器の設定と同じにします。
- ◆ チャンネル番号、グループ番号、ボイススクランブルの設定は通信する相手の方と設定を合わせてください。すべての設定が合っていないと通信ができません。
- ◆ セカンドグループ番号設定が “oFF” に設定されている場合、セカンドボイススクランブル設定を “on” に設定してもボイススクランブル機能は動作しません。

セカンドチャンネルビープ音設定

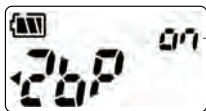
セカンドチャンネルの送受信時に鳴るビープ音のオン/オフを設定できます。

- 1 “KEy” (キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“2bP”を選択する

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	セカンドチャンネル時、ビープ音は鳴りません。
on	セカンドチャンネル時、ビープ音が鳴ります。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

セカンドチャンネルスキャン再開時間設定

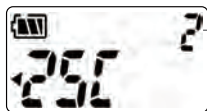
セカンドチャンネルスキャン停止状態から、セカンドチャンネルスキャンを開始するまでの時間を設定します。

- 1 “KEy”(キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“2SC”を選択する

◀「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ▶

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

2	セカンドチャンネルスキャン停止状態から 2 秒後にセカンドチャンネルスキャンを再開します。
5	セカンドチャンネルスキャン停止状態から 5 秒後にセカンドチャンネルスキャンを再開します。
10	セカンドチャンネルスキャン停止状態から 10 秒後にセカンドチャンネルスキャンを再開します。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

セカンドチャンネルスキャンを使う

本体 PF キー設定、リモコンキー 1～3 設定のどれかに “2nd” が設定されている場合、セカンドチャンネルに設定したチャンネルと待受けチャンネルのスキャン動作を行ないます。

スキャン動作（待ち受け状態）時、画面には待受けチャンネルと “2nd” が表示されます。

- 本機の【PF】を使用するとき：
本体 PF キー設定 ≪ ➡ p.92 ≫ で “2nd” に設定する。
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー 1～3 設定 ≪ ➡ p.93 ≫ のどれかを “2nd” に設定する。



- ◆ リモコンキー 1～3 設定のどれかに “2nd” が設定されている場合、本機にリモコン対応マイクロホンが接続されていないときでもセカンドチャンネルスキャン機能が動作します。リモコン対応マイクロホンが接続されていないと、セカンドチャンネルを受信しても応答することができません。
- ◆ セカンドチャンネルビープ音設定により、セカンドチャンネルのビープ音のオン/オフを設定できます。
≪ 「セカンドチャンネルビープ音設定」 ➡ p.61 ≫
- ◆ スキャン一時停止してから、セカンドチャンネルスキャン再開時間で設定された時間（秒）が経過すると、キーオフ音が鳴りセカンドチャンネルスキャンが再開します。
- ◆ セカンドチャンネル送信中でも、コールトーン呼び出しが可能です。≪ 「コールトーン呼び出し」 ➡ p.68 ≫
- ◆ VOX 機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションマイクを使用してください。≪ 「VOX レベル設定」 ➡ p.74 ≫
- ◆ セカンドチャンネルスキャン動作時にも、オートチャンネルセレクト機能を動作させることができます。
≪ 「オートチャンネルセレクトを使う」 ➡ p.52 ≫
- ◆ セカンドチャンネルスキャン動作時にも、簡易スキャン機能を動作させることができます。
≪ 「簡易スキャンを使う」 ➡ p.56 ≫

■セカンドチャンネルで受信した場合

1 セカンドチャンネルスキャン動作時に、セカンドチャンネルを受信する

セカンドチャンネルスキャンが一時停止されます。このとき、画面には受信したセカンドチャンネルが表示され、“2nd” が点滅します。



例:セカンドチャンネルスキャン
動作中(待受けチャンネル表示)

例:セカンドチャンネルスキャン
を受信した場合
(セカンドチャンネル表示)

2 “2nd” (セカンドチャンネルスキャン)が設定されたキーを押し続ける

セカンドチャンネルが表示された状態で、“2nd” (セカンドチャンネルスキャン)が設定されたキーを押し続けている間、音声を送信することができます。キーを離すと、スキャン一時停止状態になります。

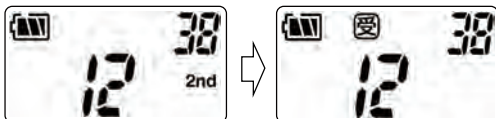


◆ セカンドチャンネル時は【PTT】を押しても、無効音が鳴り送信することができません。

■待受けチャンネルを受信した場合

1 セカンドチャンネルスキャン動作時に、待受けチャンネルを受信する

セカンドチャンネルスキャンが一時停止され、“2nd”が消灯します。



例:セカンドチャンネルスキャン
動作中(待受けチャンネル表示)

例:待受けチャンネル
を受信した場合

2 【PTT】を押し続ける

押し続けている間、音声を送信することができます。キーを離すと、スキャン一時停止状態になります。



- ◆ PTT ホールド設定を“on”に設定している場合、【PTT】を押すと送信状態が継続され、再度【PTT】を押すとスキャン一時停止状態になります。◀「PTT ホールド設定」▶ p.82 ▶

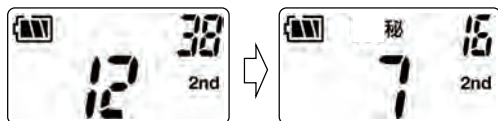
セカンドチャンネルで送信する

セカンドチャンネルスキャン動作（待ち受け状態）時に、本機からセカンドチャンネルでの送信を行ないます。

≪「セカンドチャンネルスキャンを使う」▶ p.63 ≫

1 セカンドチャンネルスキャン動作中に、“2nd”（セカンドチャンネルスキャン）を設定したキーを押す

待受けチャンネル表示から、セカンドチャンネル表に切り替わります。



例：セカンドチャンネルスキャン
動作中（待受けチャンネル表示）

例：セカンドチャンネル
へ切り替え後の表示

2 “2nd”（セカンドチャンネルスキャン）を設定したキーを押し続ける

“2nd”（セカンドチャンネルスキャン）が設定されたキーを押し続けている間、音声を送信することができます。キーを離すと、スキャン一時停止状態になります。



- ◆ セカンドチャンネル時は【PTT】を押しても、無効音が鳴り送信することができません。
- ◆ ヘッドセットやイヤホンマイクを接続しているときに、セカンドチャンネルで送信する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください（≪「オプション一覧」▶ p.105 ≫で＜VOX 対応＞と記載されている製品）。VOX 対応以外のオプションを使用すると、セカンドチャンネルでの送信時に送信者の音声相手に聞こえません。

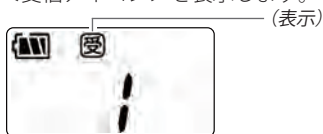
モニター

受信信号の状態をモニターできるように、強制的に雑音混じりの弱い信号でも受信できるようにします。また、受信音量を調整するときにも使用できます。

モニターする

1 【⏻】を押し、一度電源を切る

2 【▼】を押しながら【⏻】を押し、電源を入れる
＜受信アイコン＞を表示します。



- 信号を受信していないときは「ザー」という雑音が出ます。音量レベルを調整するときの目安にもなります。



- ◆ 【▼】と【⏻】を押してモニター機能をオン（常時モニター状態）にしている場合、以下の動作を行なうとモニター機能がオフになります。
 - 本機の電源をオフにする。
 - オートチャンネルセレクト動作を開始する。

モニターを解除する

1 【⏻】を押し、一度電源を切る

2 【⏻】を押し、電源を入れる



- ◆ モニター機能を使用するときは、音量レベルに注意してください。特にイヤホンを使用しているときは、「ザー」というノイズを大きい音量で聞くと耳に障害を受けることがあります。

本機の【PF】またはリモコン対応マイクロホンからモニター状態にする

- 本機の【PF】を使用するとき：
本体 PF キー設定◀ ▶ p.92 ▶で“mon”に設定する。
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー 1～3 設定◀ ▶ p.93 ▶のどれかを“mon”に設定する。

1 “mon”(モニター機能) が設定されたキー押す

モニター機能が設定されたキーを押している間だけモニター状態になり、キーを離すとモニター状態が解除されます。

コールトーン呼び出し

相手を電話の呼び出し音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。コールトーンは6種類から選択できます。また、4種類のメロディートーンも選択できます。
(コールトーン音色設定◀ ▶ p.69 ▶)



- ◆ セカンドチャンネルでコールトーン呼び出しをする場合は、【PTT】ではなく、“2nd”(セカンドチャンネルスキャン機能)が設定されているキーを押してください。
◀ 「セカンドチャンネルスキャンを使う」▶ p.63 ▶
◀ 「本体 PF キー設定」▶ p.92 ▶
◀ 「リモコンキー 1～3 設定」▶ p.93 ▶

コールトーン音色設定

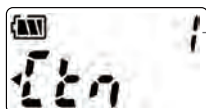
コールトーンとして送出する音色を変更できます。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー) 内の設定項目で、“Ctn”を選択する

◀「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ▶

- 2 【▲】または【▼】を押し、コールトーン音色を選択する

1 ~ 6	コールトーン 1 ~ 6
7 ~ 10	メロディートーン 1: トルコ行進曲 メロディートーン 2: エリーゼのために メロディートーン 3: ボレロ メロディートーン 4: ロンドン橋落ちた



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

本機のキーでコールトーン呼び出しをする

- 1 【PTT】を押したまま【▲】を押す

押している間コールトーンが送信されます。

本機の【PF】またはリモコン対応マイクロホンのリモコンキーを押して、コールトーン呼び出しをする

- 本機の【PF】を使用するとき：
本体 PF キー設定 << ● p.92 >> で “Ct” に設定する。
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー 1～3 設定 << ● p.93 >> のどれかを “Ct” に設定する。

1 “Ct”(コールトーン機能)が設定されたキーを押す 押している間コールトーンが送信されます。

- 【PTT】を押したままリモコン対応マイクロホンのリモコンキーを押しても送信されます。



- ◆ 中継器アクセスの動作開始時は、中継器アクセスが成功するまでコールトーンは送信されません。
- ◆ キーロックが動作しているときもコールトーン呼び出しをすることができます。

グループ番号不一致通知

グループ番号を設定している際に、グループ番号が一致しない相手から受信があると、“グループ外”を表示します。
受信音声は聞こえない状況で、グループ番号の不一致が原因であることを視覚的に分かりやすくするための機能です。

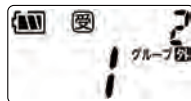
受信側の設定
グループ番号
“2”に設定

グループ番号“2”を受信



受信音声：聞こえる

グループ番号“10”を受信



受信音声：聞こえない



- ◆ 下記の状況では、グループ番号不一致通知は表示しません。
 - モニター機能動作中
 - チャンネル非表示中

キーロック

チャンネル番号やグループ番号を間違えて変えないように、キーをロックしておくことができる機能です。

キーロック長押し時間設定

【MENU】を押してキーロックが作動 / 解除するまでの時間を設定できます。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー) 内の設定項目で、“LoC”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、長押し時間を選択する

1 ~ 5 1 秒 ~ 5 秒



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

キーロックをする

- 1 【MENU】を、キーロック長押し時間設定で設定した時間以上押し続ける

キーロックが動作します。キーロック中は<  >を表示します。



キーロック中でも以下のキー操作はできます。

-  (電源をオフにする)
-  +  +  (オールリセット)
-  +  (モニター)
-  (送信)
-  +  (コールトーン送出)
- [mon] (モニター)
- [Ct] (コールトーン)
- [EmG] (エマージェンシー)
- [2nd] (セカンドチャンネル送信)
- [2nd] +  (セカンドチャンネルでのコールトーン送信)

※ [mon]、[Ct]、[EmG]、[2nd] は、本体 PF キー設定、リモコンキー 1 ～ 3 設定にて機能を設定してあるキーです。



◆ キーロックに連動して表示を消すこともできます。《「チャンネル非表示設定」▶ p.88 》。

キーロックを解除する

- 1 【MENU】を設定した時間以上押し

キーロックが解除され、<  > が消灯します。

VOX

VOX 対応オプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続していると、【PTT】を押さなくても、オプションのマイクロホンに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で待ち受け状態になります。

- VOX 送信中に【▲】/【▼】で VOX レベルを変更することもできます（オフにはできません）。



- VOX レベルを“1～5”に設定すると“VOX”を表示します。



- ◆ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、ヘッドセットやイヤホンマイクを接続せず VOX 機能を使用すると、周囲の音で誤送信したり、受信した音声により誤送信したりしてすることがあります。誤送信を防ぐために、必ずヘッドセットまたはイヤホンマイクを接続してから VOX 機能を使用してください。

VOXレベル設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

1 機能設定項目を表示し、“Vo”を選択する

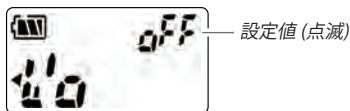
(機能(拡張)設定メニューの場合は、“FnC”(ファンクションメニュー)内の“Vo”を選択する)

《「機能(基本)設定のしかた」▶ p.39》

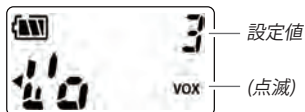
《「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41》

2 【▲】または【▼】を押し、VOXレベルを選択する

oFF	VOX 機能はオフになります。
1～5	VOX 機能がオンになり、数値が大きいほどマイクロホンの感度が上がります。



- 1～5 に設定しているときは、VOX レベル設定《▶ p.74》と VOX 遅延時間設定《▶ p.75》でマイクロホンに向かって話して、声の大きさが設定レベルに達すると“VOX”が点滅します。VOX レベル設定の目安にします。(設定画面では送信されません。)



3 メニューを終了する



- ◆ 送信禁止設定《▶ p.81》が“on”のときは、VOX 機能は動作しません。

VOX遅延時間設定

VOX 機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめたあと設定した時間は送信を継続するため音声途切れることを防ぐことができます。

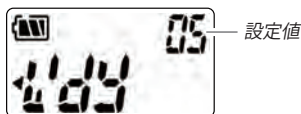
1 “FnC” (ファンクションメニュー) 内の設定項目で、“Vdy”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、遅延時間を選択する

0.3 秒 (03) から 3.0 秒 (30) の間で設定します。

03/05/10/15/30 数字が大きいほど遅延時間が長くなります。



3 メニューを終了する



- ◆ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。(≪「オプション一覧」▶ p.105 ≫で<VOX 対応>と記載されている製品)
- ◆ VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが鳴っているとき、およびモニター機能使用時は使用できません。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ VOX 送信では話し始めても送信するまで時間がかかるため、音声の最初が途切れる場合があります。このようなときは、送信開始のみ【PTT】を押して行なうこともできます。
- 【PTT】を離しても、VOX 遅延時間設定で設定している時間、送信を継続します。

その他機能

通信に関する設定

マイク感度 (内蔵) 設定

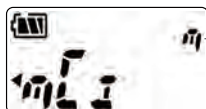
本機内蔵のマイクの感度を3段階で設定できます。相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは“H”に設定し、相手への音声が大きすぎるときは“L”に設定します。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー) 内の設定項目で、“mCi”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

L	マイク感度を低くします。
m	通常のマイク感度にします。
H	マイク感度を高くします。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

マイク感度 (外部)設定

オプションのマイクの感度を3段階で設定できます。相手がこちらの音声を聞き取りにくいときは“H”に設定し、相手への音声が大きすぎるときは“L”に設定します。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“mCE”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

L	マイク感度を低くします。
m	通常のマイク感度にします。
H	マイク感度を高くします。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

コンパンダー設定

雑音を抑えて、音声のみを明瞭にする機能です。使用する場所の周りが騒がしく、音声聞き取りにくい場合に設定します。この機能を使用するには、送信局側と受信局側双方がこの機能を設定してください。

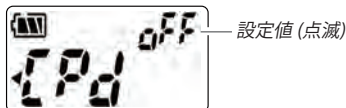
- 1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“CPd”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF コンパンダーは動作しません。

on コンパンダーが動作します。



3 メニューを終了する

送信パワー設定

中継器アクセスモード (セミデュプレックス) の 1ch ~ 18ch では、送信出力を下げることで、通信時間制限を超えた連続送信ができます。送信出力を “L” に設定すると送信がローパワーの約 1 mW になり、“H” に設定にすると送信がハイパワーの約 10 mW になります。

- 運用モードの設定 < ➡ p.35 > を “SdP” に設定しておきます。
- 連続送信を行なうには、中継器 (UBZ-RJ27) の送信パワー設定を “L” に設定することが必要です。

1 “mod” (モードメニュー) 内の設定項目を表示し、“tPw”を選択する

< 「機能 (拡張) 設定のしかた」 ➡ p.41 >

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

L 送信出力を約 1 mW にします。
(タイムアウトタイマーによる通信時間の制限がなくなります。)

H 送信出力を約 10 mW にします。



次のページへつづく

- “L”に設定すると、チャンネル番号の左に<L>と表示されます。



3 メニューを終了する



- ◆ 中継器アクセスモード（セミデュプレックス）の 19ch～27ch や交互通話モード（シンプレックス）では送信出力を下げることはできません。

通話告知音設定

通話告知音は、「通話開始告知音」と「通話終了告知音」の2種類があります。

通話開始告知音

【PTT】を押して送信したときに、通話が可能な状態になったことを送信者に音で知らせる機能です。通話の頭切れを防ぐために使用します。また、受信者がバッテリーセーブ機能を使用していると、受信するまでの時間がかかることがあるため、送信者が音声通話開始タイミングを調整します。

通話終了告知音

送信者が【PTT】を離して送信を終了したことを、受信者に音で知らせる機能です。受信者は、送信者が送信を終了したことが音でわかるため、返事をするタイミングがつかみやすくなります。

通話告知音出力設定

- 1 “FnC”（ファンクションメニュー）内の設定項目で、“ton”を選択する

◀「機能（拡張）設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	通話告知音は出力しません。
SdP	中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で運用時に通話告知音を出力します。
ALL	交互通話モード(シンプレックス)/中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で運用時に通話告知音を出力します。



3 メニューを終了する

通話告知音動作設定

通話告知音の設定で、通話開始告知音と通話終了告知音のどちらを出力するかを設定します。

1 “FnC”(ファンクションメニュー)内の設定項目で、“P-R”を選択する

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

P-	通話開始告知音を出力します。
-R	通話終了告知音を出力します。
P-R	通話開始告知音と通話終了告知音を出力します。



3 メニューを終了する

送信禁止設定

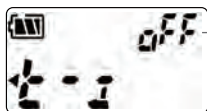
【PTT】を押しても送信させない機能です。本機を受信専用で使用するときなどに設定します。

1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“t-i”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	送信動作を許可します。
on	送信動作を禁止します。



設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

PTTホールド設定

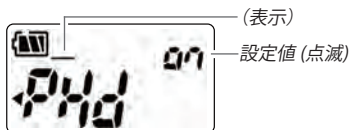
通常は送信するときは【PTT】を押し続けますが、本機能を“on”に設定し【PTT】を一度押すと送信を継続します。送信をやめるときはもう一度【PTT】を押します。

1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“PHd”を選択する

◀「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	【PTT】を押し続けると送信状態になり、【PTT】を離すと待ち受け状態になります。
on	【PTT】を押すと送信状態が継続され、再度【PTT】を押すと待ち受け状態になります。



- “on”に設定すると、“—”が表示され、送信中は点滅します。

3 メニューを終了する



- ◆ ヘッドセットやイヤホン付きクリップマイクロホンを接続しているときに PTT ホールド機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください (◀「オプション一覧」▶ p.105 ▶ で<VOX 対応>と記載されている製品)。VOX 対応以外のオプションを使用すると、PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。
- ◆ Bluetooth 機器の PTT ホールドモードを使用する場合は、本機の PTT ホールド設定は“oFF”にして使用してください。

PTTホールド自動復帰設定

PTT ホールド設定が“on”に設定されている場合、通信時間の制限により通信が終了しても、送信休止時間（2 秒）後に自動で送信を再開する機能です。

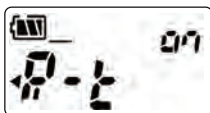
1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“R-t”を選択する

◀「機能（拡張）設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF 自動で送信は再開しません。

on 自動で送信を再開します。



設定値 (点滅)

3 メニューを終了する



- ◆ 送信休止時間経過後、使用チャンネルに受信信号がある場合は、送信は再開しません。
- ◆ 送信休止時間の間にキー操作があった場合は、送信は再開しません。
- ◆ 中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で自動復帰する場合は、送信休止時間経過後に再度中継器にアクセスをします。
- ◆ PTT ホールド設定◀▶ p.82 ▶が“oFF”のときは、PTT ホールド自動復帰は動作しません。

バッテリーに関する設定

バッテリーセーブ設定

電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。

1 機能設定項目を表示し、“SAV”を選択する

(機能(拡張)設定メニューの場合は、“FnC”(ファンクションメニュー)内の“SAV”を選択する)

≪「機能(基本)設定のしかた」▶ p.39 ≫

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	バッテリーセーブ機能は動作しません。
on	待ち受け状態で約5秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。



3 メニューを終了する



- ◆ バッテリーセーブ“on”設定時は、消費電力を抑える動作を繰り返しているため、受信やVOX動作時の音声の始めが途切れる場合があります。音声の途切れが気になる場合は、“oFF”に設定してご使用ください。



- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、<受信アイコン>が点滅することがあります。
- ◆ 簡易メニュー/機能設定中やモニター中、オートチャンネルセレクト中は、バッテリーセーブ機能は動作しません。

オートパワーオフ設定

この機能を“on”に設定すると、1 時間 59 分の間キー操作をしない場合、電源を切り忘れたとみなして警告音を鳴らします。さらに同じ状態が 1 分間続くと“APo”が点滅して自動で電源を切ります。本機の電源を切り忘れたときの、電池の消耗を防ぎます。

1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“APo”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF オートパワーオフ機能は動作しません。

on オートパワーオフ機能が動作します。



3 メニューを終了する



- ◆ オートチャンネルセレクト、簡易スキャン、セカンドスキャン動作中は、オートパワーオフ機能は動作しません。

表示に関する設定

バックライト動作設定

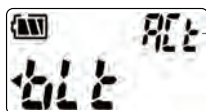
表示部のバックライトの点灯条件を設定します。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー)内の設定項目で、“bLt”を選択する

◀「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ▶

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	バックライトは常に消灯します。
ACt	【PTT】以外のキーを操作したときにバックライトが 5 秒間点灯します。
Any	キーを操作したときや信号を送信 / 受信するとバックライトが 5 秒間点灯します。
on	バックライトが常に点灯します。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

チャンネル番号切替設定

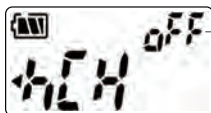
チャンネル番号の表示方法を連番表示ではなく、h 番号 (h1 ~ h9) のチャンネルが混在する従来機の表示にしたい場合に変更します。

- 1 “FnC” (ファンクションメニュー) 内の設定項目で、“hCH”を選択する

◀ 「機能 (拡張) 設定のしかた」 ▶ p.41 ▶

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	チャンネル番号を連番で表示します。 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 20 ch 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 27 ch
on	従来機の h 番号が混在するチャンネル番号で表示します。 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 11 ch, h1 ~ h9 ch 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 18 ch, h1 ~ h9 ch



設定値 (点滅)

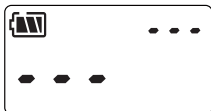
- 3 メニューを終了する

チャンネル非表示設定

チャンネル番号やグループ番号を表示させない機能です。

他人から使用しているチャンネル番号などを見られたくない場合に設定します。

チャンネル非表示状態



- この機能を“on”に設定している場合は、チャンネル番号を切り替えると、切り替えたチャンネル番号が2秒間表示されます。
- この機能を“on”に設定している場合は、本機の電源をオンにすると現在のチャンネル番号が2秒間表示されます。
- この機能を“LoC”に設定している場合は、キーロック状態で本機の電源をオンにすると現在のチャンネル番号が2秒間表示されます。キーロックされていないときは現在のチャンネル番号が表示された状態になります。

1 機能設定項目を表示し、“C--”を選択する

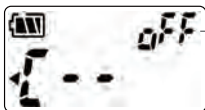
(機能(拡張)設定メニューの場合は、“FnC”(ファンクションメニュー)内の“C--”を選択する)

≪「機能(基本)設定のしかた」▶ p.39 ▶

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	チャンネル番号やグループ番号が表示されます。
on	チャンネル番号やグループ番号が表示されません。
LoC	キーロック時にチャンネル番号やグループ番号が表示されません。≪「キーロック」▶ p.71 ▶



設定値(点滅)

次のページへつづく

3 メニューを終了する



- ◆ チャンネル非表示中は、“秘”、“中継”、“L”（ローパワー送信）、“グループ外”も表示されません。

音に関する設定

ビープ音設定

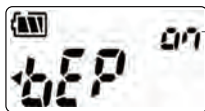
キーを操作したときに鳴る確認音をビープ音といいます。この機能を“oFF”に設定すると、このビープ音を鳴らさないようにできます。

1 “FnC”（ファンクションメニュー）内の設定項目で、“bEP”を選択する

≪「機能（拡張）設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	ビープ音は鳴りません。
on	ビープ音が鳴ります。



設定値（点滅）

3 メニューを終了する



- ◆ 以下の警告音、予告音などはビープ音“oFF”に設定しても鳴ります。
- 通信時間制限予告音
 - オートパワーオフ警告音
 - レピーターアクセスエラー音
 - 送信禁止音
 - 通話告知音
 - コールトーン
 - バッテリー減電圧警告音

スケルチレベル設定

スケルチ（雑音などを消去する機能）が解除される（音声が出力される）レベルを設定します。スケルチレベルを下げると弱い電波でも受信しやすくなりますが、雑音（「ザー」という雑音）が多くなります。逆に、スケルチレベルを上げると、弱い電波は雑音として消去するため、強い電波しか受信しなくなります。

1 機能設定項目を表示し、“Sql”を選択する

（機能（拡張）設定メニューの場合は、“FnC”（ファンクションメニュー）内の“Sql”を選択する）

◀「機能（基本）設定のしかた」▶ p.39 ▶

◀「機能（拡張）設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	常に受信状態になります（常時モニター）。
1/2/3	数値を下げると、弱い信号でも受信状態になります。数値を上げると、強い信号のみ受信状態になります。



— 設定値（点滅）

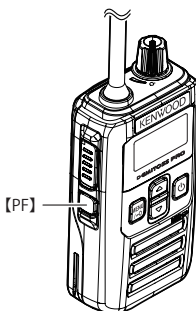
3 メニューを終了する



- ◆ グループ番号を設定している場合は、スケルチレベル設定が“oFF”に設定されていても、グループ番号が一致する信号を受信しなければ、スケルチは解除されず、“**グループ外**”が表示されます。

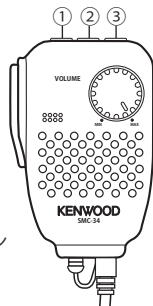
キーに関する設定

本機の【PF】およびオプション UMC-100 や SMC-34(G) などのリモコンキー（【REM1】、【REM2】、【REM3】）に機能を設定します。



- ①: リモコンキー【REM1】
- ②: リモコンキー【REM2】
- ③: リモコンキー【REM3】

スピーカーマイクホン
SMC-34(G)



本機の【PF】とリモコンキー 1～3 共通に設定できる機能

設定値	動作	関連ページ
oFF	機能を設定しません (【REM1】 / 【REM2】 / 【REM3】の初期値)	-
mon	モニター	p.67
ACS	オートチャンネルセレクト	p.51
Ct	コールトーンの呼び出し	p.68
Att	音量アッテネートのオン/オフの切り替え (【PF】の初期値)	-
EmG	エマージェンシー動作の開始/停止の切り替え	p.99
iSP	内蔵スピーカー出力のオン/オフ切り替え	-
2nd	セカンドチャンネル送信	p.66
ESC	簡易スキャン	p.54

次のページへつづく

その他機能



- ◆【REM1】 / 【REM2】 / 【REM3】の初期値は“oFF”に設定されているため、リモコン対応マイクロホンを接続しただけでは機能を動作させることはできません。
- ◆スピーカーマイクロホン (SMC-34 (G)) から機能を使用するときは、SMC-34 (G) 背面にあるロックを解除してから使用してください。

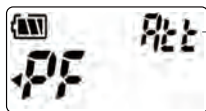
本体PFキー設定

1 “KEy” (キー・スキャンメニュー) 内の設定項目で、“PF”を選択する

◀「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	機能を設定しません
mon	モニター
ACS	オートチャンネルセレクト
Ct	コールトーンの送出
Att	音量アッテネートのオン / オフの切り替え
EmG	エマージェンシー動作の開始 / 停止の切り替え
iSP	内蔵スピーカー出力のオン / オフ切り替え
2nd	セカンドチャンネル送信
ESC	簡易スキャン



設定値 (点減)

3 メニューを終了する

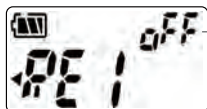
リモコンキー1～3設定

1 “KEy” (キー・スキャンメニュー)内の設定項目で、“RE1”、“RE2”、“RE3”のどれかを選択する

≪「機能(拡張)設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	機能を設定しません
mon	モニター
ACS	オートチャンネルセレクト
Ct	コールトーンの送出
Att	音量アッテネートのオン/オフの切り替え
EmG	エマージェンシー動作の開始/停止の切り替え
iSP	内蔵スピーカー出力のオン/オフ切り替え
2nd	セカンドチャンネル送信
ESC	簡易スキャン



設定値(点滅)

3 メニューを終了する



- ◆ リモコンキー1～3に“2nd”を設定し、ヘッドセットやイヤホンマイクを使ってセカンドチャンネルで送信する場合は、VOX対応のオプションを使用してください(≪「オプション一覧」▶ p.105 ≫で<VOX 対応>と記載されている製品)。VOX対応以外のオプションを使用すると、セカンドチャンネルでの送信時に送信者の音声相手に聞こえません。

Bluetooth® に関する設定 UBZ-BM51BTのみ

Bluetooth 設定を “on” に設定することで、Bluetooth 機器を使用できる状態にします。

Bluetooth設定

1 機能設定項目を表示し、“bt”を選択する

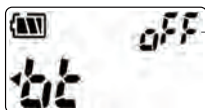
(機能(拡張)設定メニューの場合は、“bt”(ブルートゥースメニュー)内の“bt”を選択する)

≪「機能(基本)設定のしかた」➡ p.39 ≫

≪「機能(拡張)設定のしかた」➡ p.41 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

off	Bluetooth 機器を使用できません。
on	Bluetooth 機器を使用できます。



設定値 (点滅)



- ◆ Bluetooth 設定が “on” でも、本機に Bluetooth 機器が登録されていない場合、Bluetooth 機器を使用することができません。Bluetooth 機器のペアリングを行なってください。≪「Bluetooth 機器ペアリング設定」➡ p.95 ≫

3 メニューを終了する

Bluetooth機器ペアリング設定

接続可能な Bluetooth 機器を検索し、見つかった Bluetooth 機器を登録・接続します。Bluetooth 設定を “on” にしてからペアリングを行なってください。



- ◆ 本機に登録できる Bluetooth 機器は 1 台のみです。
- ◆ オプションの KHS-55BT (Bluetooth ヘッドセット) が見つかった場合は、KHS-55BT が優先して登録されます。
- ◆ 本機とペアリングされた Bluetooth 機器は、電源を入れると自動的に本機と接続されるようになります。

1 機能設定項目を表示し、“PAR”を選択する

(機能 (拡張) 設定メニューの場合は、“bt” (ブルートゥースメニュー) 内の “PAR” を選択する)

≪「機能 (基本) 設定のしかた」▶ p.39 ≫

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

2 【MENU】を押す

- ペアリングモードが開始されます。
- ペアリングモードの有効時間は 120 秒です。タイムアウトまでの時間が画面に表示されます。



タイムアウトまでの
時間 (秒)

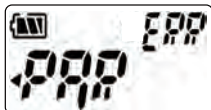
- Bluetooth 機器の登録・接続が完了すると、“BT” と “SUC” (Success) が表示されます。1 秒経過すると、自動的に機能設定項目の選択表示状態に戻ります。



その他機能



- ◆ Bluetooth 設定が“oFF”に設定されている場合は、無効音が鳴り、ペアリングモードは開始されません。
- ◆ Bluetooth 機器の登録・接続が 120 秒以内に完了しなかった場合は、無効音が鳴り、“ERR” (Error) と表示されます。1 秒経過すると、自動的に機能設定項目の選択表示状態に戻ります。



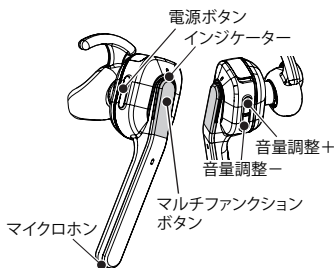
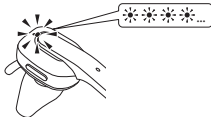
■ KHS-55BT (オプション)のペアリングモード方法

詳細は、KHS-55BT の「取扱説明書」をご覧ください。

1 KHS-55BTの電源ボ

タンをインジケーターが点滅するまで押す (約5秒間)

インジケーターが速く点滅しないときはいったん電源を切って、やり直してください。



1 「ピピピッ、ピピピッ」と鳴ったら、マルチファンクションボタンを押す

ペアリングが完了し、インジケーターがゆっくり点滅します。



- ◆ マルチファンクションボタンは、本機との接続完了後は【PTT】として使用します。

Bluetoothマイクの入力切替設定

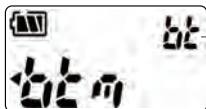
使用するマイク (Bluetooth 機器のマイク、本機内蔵のマイクまたは、オプション機器のマイク) を設定できます。

- 1 “bt” (ブルートゥースメニュー) 内の設定項目で、“btm”を選択する

≪ 「機能 (拡張) 設定のしかた」 ➡ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

bt	Bluetooth 機器のマイクを使用します。
noR	本機内蔵のマイクまたは、外部機器のマイクを使用します。



設定値 (点滅)

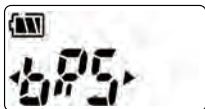
- 3 メニューを終了する

Bluetoothの初期化

Bluetooth 機器の接続情報を初期化します。

- 1 “bt” (ブルートゥースメニュー)内の設定項目で、“bRS”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」➡ p.41 ≫



- 2 【MENU】を押す

確認のため、“SUR” (Sure?) と表示されます。



- 3 Bluetooth初期化確認画面が表示された状態で、【MENU】を押す

- Bluetooth の初期化が実行されます。初期化が完了すると、待ち受け状態の画面に戻ります。
- Bluetooth の初期化が実行されると、本機は以下の状態になります。
 - ・ 本機に接続中の Bluetooth 機器がある場合、接続が切断されます。
 - ・ Bluetooth 機器の接続情報が消去されます。
 - ・ Bluetooth 設定が “oFF” に戻ります。
 - ・ Bluetooth マイク入力切替設定が “bt” に戻ります。

エマージェンシー機能

エマージェンシー操作

緊急時、“EmG” に設定したキーを押して、自分が緊急状態であることを通知する機能です。



- ◆ “EmG” (エマージェンシー) に設定したキーを押してから動作が開始するまでの時間 (秒) は、エマージェンシーキー動作時間設定の時間 (秒) によります。
　　《「エマージェンシーキー動作時間設定」 ▶ p.103 》

エマージェンシー動作を開始する

- 1** “EmG” (エマージェンシー) に設定したキーを長押しする画面に “EmG” と表示され、現在のチャンネルでエマージェンシー動作を開始します。



——グループ番号

例：グループ番号が “1” に設定されている場合

- 下記のエマージェンシー動作を繰り返します。
 1. エマージェンシートーンを送信する (3 秒)
 2. 音声を送信する (17 秒)
 3. 待ち受け (40 秒)
- エマージェンシー送信中は自動でマイク感度を上げて送信音声を大きくします。
- バックグラウンドトーン設定が “on” のときは送信音声にバックグラウンドトーンを加えて送信します。
　　《「バックグラウンドトーン設定」 ▶ p.102 》
- エマージェンシー動作中は、【**🔊**】、【PTT】、音量ツマミ以外のキーは動作しません。



- ◆ グループ番号が設定されているチャンネルでエマージェンシー動作を行なっている場合、画面にグループ番号が表示されます。グループ番号が設定されていない場合は表示されません。

エマージェンシー機能

エマージェンシー動作を解除する

1 “EmG” (エマージェンシー)に設定したキーを長押しする

エマージェンシー動作が解除されます。

- 電源をオフにするとエマージェンシー動作は解除されます。

エマージェンシーを受信したら

- 送信している側のバックグラウンドトーン設定が“on”のときは送信者の音声と共にバックグラウンドトーンが鳴ります。

《「バックグラウンドトーン設定」▶ p.102》



- ◆ ヘッドセットやイヤホンマイクを接続しているときに、エマージェンシー機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください (《「オプション一覧」▶ p.105》で<VOX 対応>と記載されている製品)。VOX 対応以外のオプションを使用すると、エマージェンシー送信時に送信者の音声相手に聞こえません。



- ◆ エマージェンシー動作を繰り返す際、エマージェンシー再送信前にエマージェンシートーンを5秒間出力します。(【PTT】を押して送受信を切り替えたとき、エマージェンシートーンが出力されません。)
- ◆ エマージェンシー送信開始時にチャンネルが使用されている(<受信アイコン>が表示されている)場合は、チャンネルが空いたときにエマージェンシー送信を開始します。
- ◆ 中継器アクセスモードの場合は、待ち受け状態から送信に戻ったときに再度レピーターにアクセスを行いません。ただし、アクセス状態が維持されている場合、アクセスは行いません。

エマージェンシーに関する設定

エマージェンシーオーディオ動作設定

自分の周りの人にエマージェンシー機能が動作していることを知られたくないときなどに、エマージェンシートーンを出力する方法を選択します。

- 1 “EmG” (エマージェンシーメニュー)内の設定項目で、“AUd”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

SiL	エマージェンシー動作時、内蔵と外部スピーカーどちらからも音声は出力されません。
ESP	エマージェンシー動作時、外部スピーカーからのみ音声出力されます。
AUd	エマージェンシー動作時、内蔵と外部スピーカー両方から音声出力されます。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

バックグラウンドトーン設定

エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを出力し、エマージェンシー動作中であることを示す機能です。通常の送信とエマージェンシー送信を判別したいときに使用します。この機能を“on”にするとエマージェンシー送信時に1秒間隔で送信音声にバックグラウンドトーンを出力します。

- 1 “EmG” (エマージェンシーメニュー)内の設定項目で、“bGt”を選択する

≪「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ≫

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを出力しません。
on	エマージェンシー送信中にバックグラウンドトーンを出力します。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

エマージェンシーキー動作時間設定

“EmG” (エマージェンシー) を設定したキーを押してから、動作が開始するまでの時間 (秒) を設定します。

- 1 “EmG” (エマージェンシーメニュー) 内の設定項目で、“KEy” を選択する

《「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41》

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

2	“EmG” (エマージェンシー) を設定したキーの長押し時間を 2 秒にする。
4	“EmG” (エマージェンシー) を設定したキーの長押し時間を 4 秒にする。
6	“EmG” (エマージェンシー) を設定したキーの長押し時間を 6 秒にする。



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

エマージェンシー機能

エマージェンシー送信サイクル設定

エマージェンシー送信を繰り返す回数を設定します。

- 1 “EmG” (エマージェンシーメニュー)内の設定項目で、“CyC”を選択する
◀「機能 (拡張) 設定のしかた」▶ p.41 ▶

- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

5/10/15/ 20/25/30	設定した回数のエマージェンシー送信を繰り返します。
----------------------	---------------------------

inF	エマージェンシー動作を解除または、電源をオフするまでエマージェンシー送信を繰り返します。
-----	--



設定値 (点滅)

- 3 メニューを終了する

その他

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

機種名	商品名
UCM-100	コントロールマイクロホン＜VOX 対応＞「生産完了商品」 ※ UCM-100 は単体では使用できません。UCM-100 対応イヤホン (UHS-1、UHS-2、UHS-3) と組み合わせてご使用ください。
EMC-3A	イヤホン付きクリップマイクロホン
EMC-5F	イヤホン付きクリップマイクロホン (マイク感度切り替え付き)＜VOX 対応＞
EMC-11	イヤホン付きクリップマイクロホン
EMC-12	イヤホン付きクリップマイクロホン (耳掛けタイプ)＜VOX 対応＞
KHS-21	ヘッドセット (PTT スイッチ無し)＜VOX 対応＞「生産完了商品」
KHS-35F	ヘッドセット (耳掛けタイプ)＜VOX 対応＞
KHS-55BT	ワイヤレスヘッドセット＜VOX 対応＞
UHS-1	イヤーフックタイプイヤホン (UCM-100 用)
UHS-2	アコースティックチューブイヤホン (UCM-100 用)
UHS-3	カナルタイプイヤホン (UCM-100 用)
HS-9(G)	ブチホン型イヤホン
KEP-6	イヤホン
SMC-34(G)	リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン
KBH-20	ベルトフック
SB-4	ネックストラップ
UPB-8L	リチウムイオンバッテリーパック
UBC-8ML	連結用 AC アダプター (指定の充電台を最大 6 台まで接続可能)

関連機器

機種名	商品名
UBZ-RJ27	特定小電力中継器 (セミデュプレックス適用)

その他

次のページへつづく



- ◆ ヘッドセットやイヤホン付クリップマイクロホンを接続しているときに、エマージェンシー機能や PTT ホールド機能、セカンドチャンネル送信機能を使用するときは＜VOX 対応＞のオプションを使用してください。
＜VOX 対応＞以外のオプションを接続すると下記の状態になります。
 - エマージェンシー送信時に送信者の音声は相手に聞こえません。
 - PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。
 - セカンドチャンネルで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。
-



- ◆ 本機に使用できるオプション製品が追加されたり、生産が終了したりすることがあります。オプション製品についてはカタログなどを参照してください。
 - ◆ 本機のオプションについては、弊社ホームページからもご覧いただけます。
<https://www.kenwood.com/jp/pro/com/license-free/option/>
-

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。

共通事項

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
●電源が入らない ●表示がすぐ消える ●表示が点滅して、電源が切れない	バッテリー容量が低下している	充電池(バッテリーパック)を充電する	p.22
		充電池(バッテリーパック)を交換する	p.20
●受信できない ●音量レベルを上げても音が出ない	送信中になっている	送信をやめる	-
	PTT ホールド機能が動作している	【PTT】を押して送信をやめる	p.82
	グループ番号が違う	グループ番号を相手と同じにする	p.36
	音量ボリュームが小さくなっている	音量つまみを右に回して、音量を大きくする	p.29 p.34
	音量アッテネートが動作している	音量アッテネートに設定されているキーを押してアッテネーターを解除する	-
相手と通話できない	運用モードが違っている	相手と同じ運用モードにする	p.35
	チャンネルかグループ番号が違う	チャンネル、グループ番号を相手と同じに合わせる	p.34 p.36
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	p.17
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている	キーロックを解除する	p.72

次のページへつづく

その他

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
送信ができない	<受信アイコン>が点灯している	チャンネルを変更するか、<受信アイコン>が消えるのを待つ	p.34
	送信禁止が“on”に設定されている	“oFF”に設定する	p.81
表示部の照明が消えない	照明が常時点灯の設定になっている	バックライト動作を“ACt”、“Any”または“oFF”に設定する	p.86
バッテリーがすぐ消耗する	照明の常時点灯をよく使う	常時点灯は必要なときだけ使う	p.86
	バッテリーセーブを“oFF”に設定している	“on”に設定する	p.84
音声聞き取れない	送信側 / 受信側いずれか一方のボイススクランブル機能がオンになっている	送信側 / 受信側ともにボイススクランブル機能をオンまたはオフの同じ設定にする	p.37
何も聞こえないのに<受信アイコン>が点灯する	グループ番号が設定された状態でスケルチがオフになっている	スケルチレベルを1～3に設定する	p.90
オートチャンネルセレクトが動作しない	グループ番号が設定されていない	グループ番号を設定する	p.36
	運用モードが“SdP”（中継器アクセスモード）に設定されている	“SP”（シンプレックスモード）に設定する	p.35

中継器を使用している場合

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
中継器にアクセスできない	アクセスエラー音が鳴らない ● 運用モードが中継器アクセスモードになっていない	運用モードを“SdP”（中継器アクセスモード）に設定する	p.35
	アクセスエラー音が鳴る ● チャンネル番号、グループ番号が中継器の番号と違う	チャンネル番号、グループ番号を中継器の番号と合わせる	p.34 p.36
	● 中継器との距離が離れすぎている	通話のできる距離を目安に通話する	p.17

Bluetooth 機能を使用している場合 **UBZ-BM51BTのみ**

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
Bluetooth 接続できない。	接続する Bluetooth 機器の電源が入っていない。	Bluetooth 接続する機器の電源を入れる。	-
	Bluetooth 機能の設定が“on”になっていない。	Bluetooth 機能の設定を“on”にする。	p.94
	接続したい Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器を接続している。	接続したい Bluetooth 機器だけを電源オンにする。	p.95

オールリセット

オールリセットすると、設定されている内容はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

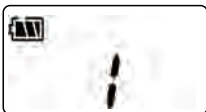
- 1 一度電源を切る
- 2 【▲】と【▼】を押しながら、【⏻】を押して電源を入れる
表示部が全表示し、バックライトも点灯します。



- 3 【▲】、【▼】、【⏻】のいずれかのキーを離す
確認のため、“SUR” (Sure?) と表示されます。



- 4 【PTT】を押す
すべての設定がお買い上げ時の状態に戻り、待ち受け状態になります。



- 【PTT】以外のキーを押した場合は、オールリセットしないで待ち受け状態になります。

保証とアフターサービスについて

保証書 (別添)

この製品では、保証書を「取扱説明書 (基本編)」に記載しております。保証書にお買い上げ年月日、販売店名が記載されているかお確かめください。万一記入がない場合は、直ちに販売店にお申し出ください。購入日の確認ができる書類 (シールやレシートなど) の添付でもかまいませんので、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より**1年間**です。

付属品の保証期間は、お買い上げの日より**1か月**です。

修理を依頼されるときは

「故障かな? と思ったら」《● p.107》を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合、設定された項目がオールリセットされ、お買い上げ時の状態に戻ります場合がありますので、別途お客様で自身でお控えくださいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通信などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因 (衝撃や水分、異物の混入など) による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期限

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後最大 6 年程度対応できるよう努めておりますが、部品メーカーの部品廃止などにより修理の可否が変化することがあります。製造打ち切り後の修理の可否に関しては JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにご相談ください。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

修理料金の仕組み (有料修理の場合は次の料金が必要です。)

技術料: 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。

部品代: 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。

送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行なうにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

機種名	UBZ-BM51	UBZ-BM51BT
チャンネル数	シンプレックスモード：20 ch 中継器アクセスモード：27 ch	
使用周波数帯	400 MHz 帯	
送信出力	10 mW / 1 mW * * 中継器アクセスモードの CH1 ～ CH18 設定時のみ有効	
電波型式	F3E	
音声出力	内部：400 mW 以上 (8 Ω 負荷、10 % 歪) 外部：70 mW 以上 (8 Ω 負荷、10 % 歪)	
電源電圧	電池端子：DC 3.7 V (マイナス接地) 対応電源：Li-ion 3.7 V 1430 mAh	
使用温度範囲	-10℃ ～ +50℃	
外形寸法 (突起物含まず)	幅 56.4 mm × 高さ 103.0 mm × 奥行 29.6 mm	
質量 (充電電池含む、ベルトフック含まず)	約 167.4 g	約 172.4 g
防塵・防水性能	端子カバー、バッテリーカバー密閉時：IP67 オプション装着時：IP54	
Bluetooth	-	バージョン：5.2 クラス：Class 2 相当 (最大通信距離 10 m) 対応プロファイル：HSP

機種名	UPB-8L (付属品またはオプション)
公称出力電圧	3.7 V
公称電流容量	1430 mAh

※ 仕様は予告なく変更することがあります。

JVCケンウッドカスタマーサポートセンター

固定電話からは、フリーダイヤル



0120-2727-87

携帯電話からは、ナビダイヤル



0570-010-114

一部の IP 電話など、フリーダイヤル、
ナビダイヤルがご利用になれない場合は

045-450-8950

FAX を送信される場合は

045-450-2308

住所 〒 221-0022

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

受付日 月曜日～土曜日（祝祭日および、弊社休日を除く）

受付時間 月～金曜日 9：30～18：00

土曜日 9：30～12：00、13：00～17：30

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
- 修理などアフターサービスについては、下記 URL の弊社ウェブサイトをご覧ください。ただか、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
URL <https://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>
- ユーザー登録 (My-Kenwood) をご利用ください。
お買い上げいただいたケンウッド商品をご愛用いただくために、弊社ホームページ内でユーザー登録することをおすすめします。

URL <https://jp.my-kenwood.com>

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

©2025 JVCKENWOOD Corporation